

大学番号：私203

[平成27年度設置]

計画の区分：学部の設置

認可

山梨学院大学 国際リベラルアーツ学部

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 山梨学院
平成28年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	教務部 教務課
職名・氏名	鬼頭 雅明
電話番号	055-224-1312
F A X	055-224-1492
e-mail	yg-kyoumu@ytos.ygu.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(◇◇学部(平成◇◇年度より学部名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学新設の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成28年3月30日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

国際リベラルアーツ学部

＜国際リベラルアーツ学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	15
4. 既設大学等の状況	16
5. 教員組織の状況	18
6. 留意事項等に対する履行状況等	37
7. その他全般的事項	50

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 山梨学院

(2) 大学名

山梨学院大学

(3) 大学の位置

〒400-8575
山梨県甲府市酒折二丁目4-5

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(フルヤタダヒコ) 古屋忠彦 (昭和54年10月)		
学長	(フルヤタダヒコ) 古屋忠彦 (昭和54年10月)		
学部長	(ラクトリン、マイケル・ジョン) LACKTORIN, Michael John (平成27年4月)		
副学部長	(エツロット、クリスティアン) ETZRODT, Christian (平成27年4月)	(トウママサヒロ) 當真正裕 (平成28年4月)	既設学部及び設置者(学校法人)とのコミュニケーションを重視し、日本人バイリンガルに変更した。(28)
副学部長	(スガヒトシ) 須賀 等 (平成28年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成26年度に報告済の内容 → (26)

平成28年度に報告する内容 → (28)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成25年度開設の4年制の学科の場合(平成28年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
国際リベラルアーツ学部 国際リベラルアーツ学科 学士(国際リベラルアーツ)	4年	80人	- 年次人	320人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	80 (-) [-]	人 人	80 (-) [-]	人 人	() []	0.37 倍						
志願者数	52 (-) [-]	20 (-) [18]	54 (1) [2]	() []								
受験者数	52 (-) [-]	19 (-) [17]	50 (1) [2]	() []								
合格者数	35 (-) [-]	13 (-) [11]	33 (1) [2]	() []								
B 入学者数	27 (-) [-]	10 (-) [8]	23 (1) [1]	() []								
入学定員超過率 B/A	0.46		0.28									

- (注) ・ 数字は, 平成28年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ [] 内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[0] (-) 26	[7] (-) 9	[8] (9) 32	[] ()					
2年次	/		[1] (-) 27	[] ()					
3年次	/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4年次	/		/		/		[] ()	[] ()	
計	[7] (-) 35	[7] (-) 9	[9] (9) 59	[] ()					

- (注) ・ 数字は、平成28年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

2 授業科目の概要

<国際リベラルアーツ学部 国際リベラルアーツ学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
English for Academic Excellence (EAE)	English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A)	1前・後		15		3	3	2				平成27年3月 Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退 (27) Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退の理由により、教員を追加 (27) 担当 RAFIEYAN, Vahid (准教授) 平成27年6月 提出予定 平成27年9月 RAFIEYAN, Vahid准教授に担当者を変更 (AC教員審査済 : 判定可) (28) 平成28年3月 PATTERSON, Donald Glen講師辞職 平成28年4月 FENTON, Anthony Lawrence講師辞職 「English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A)」 については他に担当教員が9人いるため、支障はない。(28)
	English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B)	1前・後	15			3	3	2			平成27年3月 Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退 (27) Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退の理由により、教員を追加 (27) 担当 RAFIEYAN, Vahid (准教授) 平成27年6月 提出予定 平成27年9月 RAFIEYAN, Vahid准教授に担当者を変更 (AC教員審査済 : 判定可) (28) 平成28年3月 PATTERSON, Donald Glen講師辞職 平成28年4月 FENTON, Anthony Lawrence講師辞職 「English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B)」 については他に担当教員が9人いるため、支障はない。(28)	
Foundations (基幹教育)	Composition 1 (英作文1)	1前・後 未開講 1前・後		3		3	3	3			通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27) 平成27年3月 Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退 (27) Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退の理由により、教員を追加 (27) 担当 RAFIEYAN, Vahid (准教授) 平成27年6月 提出予定 平成27年9月 RAFIEYAN, Vahid准教授に担当者を変更 (AC教員審査済 : 判定可) (28) 平成28年3月 PATTERSON, Donald Glen講師辞職 平成28年4月 FENTON, Anthony Lawrence講師辞職 「Composition 1 (英作文1)」については 他に担当教員が9人いるため、支障はない。(28)	
	Composition 2 (英作文2)	1前・後 未開講 1前・後		3		3	3	3			通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27) 平成27年3月 Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退 (27) Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退の理由により、教員を追加 (27) 担当 RAFIEYAN, Vahid (准教授) 平成27年6月 提出予定 平成27年9月 RAFIEYAN, Vahid准教授に担当者を変更 (AC教員審査済 : 判定可) (28) 平成28年3月 PATTERSON, Donald Glen講師辞職 平成28年4月 FENTON, Anthony Lawrence講師辞職 「Composition 2 (英作文2)」については 他に担当教員が9人いるため、支障はない。(28)	

科目区分	授業科目の名称	記当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
F o u n d a t i o n a l C o u r s e s (基 幹 教 育)	Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング)	1前・後 未開講 +前・+後		3		3	3 -2- -3-	3 -5-				通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27) 平成27年3月 Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退 (27) Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退の理由により、教員を追加 (27) 担当 RAFIEYAN, Vahid (准教授) 平成27年6月 提出予定 平成27年9月 RAFIEYAN, Vahid准教授に担当者を変更 (AC教員審査済: 判定可) (28) 平成28年3月 PATTERSON, Donald Glen講師辞職 平成28年4月 FENTON, Anthony Lawrence講師辞職 「Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング)」 については他に担当教員が9人いるため、支障はない。(28)
	Expository Research Writing (リサーチ・ライティング)	1前・後 未開講 +前・+後		3		3	3 -2- -3-	3 -5-				通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27) 平成27年3月 Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退 (27) Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退の理由により、教員を追加 (27) 担当 RAFIEYAN, Vahid (准教授) 平成27年6月 提出予定 平成27年9月 RAFIEYAN, Vahid准教授に担当者を変更 (AC教員審査済: 判定可) (28) 平成28年3月 PATTERSON, Donald Glen講師辞職 平成28年4月 FENTON, Anthony Lawrence講師辞職 「Expository Research Writing (リサーチ・ライティング)」 については他に担当教員が10人いるため、支障はない。(28)
	Introduction to World Issues (国際問題入門)	1前・後 未開講 +前・+後		3		1						通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27)
	Critical Thinking & Debate (批判的思考とディベート)	1前・後 未開講 +前・+後		3		3						通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27)
	The Art of Making Presentations (プレゼンテーション技術)	1前 未開講		1		1						通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27)
	Critical and Creative Thinking (批判的・創造的思考技術)	2前		1		1	6 -7- -8-	3 -2-				平成27年3月 REISMAN, David Alexander教授就任辞退 (27) 担当 生藤 昌子 (准教授) 平成27年6月 提出予定 平成27年9月 生藤 昌子准教授に担当者を変更 (AC教員審査済: 判定可) (28) 健康上の理由により HREBENAR, Ronald John教授就任辞退 「後任未定」平成29年4月から専任教員採用予定で公募中 平成30年4月開講の科目のため現状において支障はない (28)
	Graduation Research Project (卒業研究)	4前・後		2								通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27) 平成27年3月 Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退 (27) Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退の理由により、教員を追加 (27) 担当 RAFIEYAN, Vahid (准教授) 平成27年6月 提出予定 平成27年9月 RAFIEYAN, Vahid准教授に担当者を変更 (AC教員審査済: 判定可) (28) 平成28年3月 PATTERSON, Donald Glen講師辞職 平成28年4月 FENTON, Anthony Lawrence講師辞職 「Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース)」 については他に担当教員が9人いるため、支障はない。(28)
	Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース)	1前 未開講 +前		12		3	3 -2- -3-	2 -4-				通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27) 平成27年3月 Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退 (27) Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退の理由により、教員を追加 (27) 担当 RAFIEYAN, Vahid (准教授) 平成27年6月 提出予定 平成27年9月 RAFIEYAN, Vahid准教授に担当者を変更 (AC教員審査済: 判定可) (28) 平成28年3月 PATTERSON, Donald Glen講師辞職 平成28年4月 FENTON, Anthony Lawrence講師辞職 「Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース)」 については他に担当教員が9人いるため、支障はない。(28)
	Career Design 1 (キャリア・デザイン1)	2前		1		2						
	Career Design 2 (キャリア・デザイン2)	3・4前		1		2						
Internship (インターンシップ)	3・4前・後			1	1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
L a n g u a g e A r t s (英語)	Introduction to Language Concepts (言語概念入門)	1前・後 1後		3		2						平成28年4月から教育の充実を図るため、後期に加え、前期にも開講する (28)	
	Sociolinguistics (社会言語学)	2後		3		1							
	World Englishes (世界の英語)	3・4前		3		1							
	Literature Appreciation (文学鑑賞)	1後		3		1		1					
	Lyric Poetry (叙情詩)	2前		3		1							
	Major Themes in World Literature (世界の文学の主要テーマ)	3・4後		3		1		1					
	Comparative Literature Studies (比較文学研究)	3・4後		3		1		1					
	Creative Writing Across Genres (領域横断型クリエイティブ・ライティング)	3・4後		3		1		1					
	Advanced Expository Writing (英作文上級)	2後		3		3		2 + -2		1			平成27年3月 Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退 (27) Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退の理由により、教員を追加 (27) 担当 RAFIEYAN, Vahid (准教授) 平成27年6月 提出予定 平成27年9月 RAFIEYAN, Vahid准教授に担当者を変更 (AC教員審査済：判定可) (28)
	English Communication for the Workplace (職場での英語コミュニケーション)	3・4後		3		1	2						
Seminar (Language Arts) (英語演習)	4前・後		1		2								
H u m a n i t i e s (人文教養)	Elementary Japanese 1 (日本語初級1)	1前・後 未開講 +前・後		3			1	2				通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27) 兼1 平成27年9月から教育の充実を図るため、兼任講師(秋山 満貴)1人を追加 (28) 通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27) 兼1 平成27年9月から教育の充実を図るため、兼任講師(秋山 満貴)1人を追加 (28) 通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27) 兼1 平成27年9月から教育の充実を図るため、兼任講師(秋山 満貴)1人を追加 (28) 通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27) 通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27) 通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27) 平成28年4月から教育の充実を図るため、授業科目を追加 (AC教員審査済：判定可) (当真 正裕准教授、今城 淳講師、花城 可武講師の、計3名) (28) 平成28年4月から教育の充実を図るため、授業科目を追加 (AC教員審査済：判定可) (当真 正裕准教授、今城 淳講師、花城 可武講師の、計3名) (28) 通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27)	
	Elementary Japanese 2 (日本語初級2)	1前・後 未開講 +前・後		3			1	2					
	Elementary Japanese 3 (日本語初級3)	1前・後 未開講 +前・後		3			1	2					
	Intermediate Japanese 1 (日本語中級1)	1前・後 未開講 +前・後		3			1	2					
	Intermediate Japanese 2 (日本語中級2)	1前・後 未開講 +前・後		3			1	2					
	Advanced Japanese (日本語上級)	1前・後 未開講 +前・後		3			1	2					
	Shortcuts to Kanji (漢字演習)	1前・後		1			1	2					
	Kanji in Contexts (文脈の中の漢字)	1前・後		1			1	2					
	Professional Writing in Japanese (社会人としての日本語作文)	1前・後 未開講 +前・後		1			1	2					
	Reading Japanese Newspapers (日本語新聞読解)	1後 1前・後		1			1	2					
Public Speech in Japanese (日本語スピーチ)	1前・後 未開講 +前・後		1			1	2						
Workshop: Experiencing Teaching Japanese (ワークショップ：日本語教育体験/観察)	2前・後		1			1	2						

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
H u m a n i t i e s (芸 術) A r t s (人 文 教 養)	Art Appreciation (美術鑑賞)	1 後		3			1					
	History of Western Art (西洋美術史)	2 前		3			1					
	Japanese Art (日本美術)	1 後		3			1					
	Traditional Japanese Handicraft (日本の伝統的手工芸)	2 前		3			1					
	Comparative Art Studies (比較美術研究)	3・4 前		3			1					
	Seminar (Arts) (芸術演習)	4 前・後 1 前		1			1					
	Workshop: Drawing I (ワークショップ: 絵画実習 I)	未開講 1 前		1							兼 1	通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27)
	Workshop: Drawing II (ワークショップ: 絵画実習 II)	2 前		1							兼 1	
	Workshop: Sculpting I (ワークショップ: 彫刻実習 I)	1 後		1			1					
	Workshop: Sculpting II (ワークショップ: 彫刻実習 II)	2 後 1 前・後 未開講		1			1					通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27)
Workshop: Traditional Japanese Culture (ワークショップ: 日本の伝統的文化実習)	1 前・後 未開講		1			1				兼 2		
Workshop: Calligraphy (ワークショップ: 書道実習)			1			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
P e r f o r m i n g A r t s (芸 能)	Western Film & Theater (西洋映画・演劇)	1前 未開講		3		1						通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27)	
	Japanese Film & Theater (日本映画・演劇)	1後		3		1							
	Manga & Anime Studies (マンガ・アニメーション学)	1後		3		1							
	Film History (映画史)	3・4前		3		1							
	Japanese Traditional Theater (日本の伝統演劇)	2後		3		1							
	Comparative Theater Aesthetics (比較演劇美学)	3・4前		3		1							
	Seminar (Performing Arts) (芸能演習)	4前・後		1		1							
	Workshop: Acting I (ワークショップ:演技実習Ⅰ)	1前 未開講		1								通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27)	
	Workshop: Acting II (ワークショップ:演技実習Ⅱ)	1前		1							兼 1		
	Workshop: Directing (ワークショップ:演劇監督実習)	2後 未開講		1								通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27)	
	Workshop: Noh Theater (ワークショップ:能実習)	1前 未開講		1							兼 1	通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27)	
	H u m a n i t i e s (人 文 教 養)	How We Listen to Music: Foundations of Music Perception, Cognition, and Association (音楽鑑賞:知覚認知と音響学の基礎)	1後		3		1						
		History of Western Music (西洋音楽史)	2前		3		1						
		Japanese Traditional Music (日本の伝統音楽)	2後		3							兼 1	
		Introduction to Music Technology (音楽技術入門)	2後		3		1						
		History of Modern Music (近代音楽の歴史)	3・4後		3		1						
		Music Fundamentals: Harmony, Musicianship, and Arranging (音楽基礎:和声、音楽的能力、編曲)	3・4前		3		1						
		Music and Other Media: Interdisciplinary Perspectives (音楽と他のメディア:学際的視点)	3・4前		3		1						
		Seminar (Music) (音楽演習)	4前・後		1		1						
		Workshop: Music Practice I (Improvisation Ensemble) (ワークショップ:音楽実習Ⅰ(即興アンサンブル))	1後		1		1						
Workshop: Music Practice II (Keyboards) (ワークショップ:音楽実習Ⅱ(キーボード))		2後		1							兼 1		
Workshop: Music Practice III (Choral Ensemble) (ワークショップ:音楽実習Ⅲ(合唱アンサンブル))		2後		1							兼 1		
Workshop: Music Practice IV (Japanese Koto) (ワークショップ:音楽実習Ⅳ(琴))		1後		1							兼 1		
Workshop: Music Practice V (Shakuhachi) (ワークショップ:音楽実習Ⅴ(尺八))		1後 未開講		1							兼 1	通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27)	
Workshop: Music and Creativity I (ワークショップ:音楽と創造性実習Ⅰ)		1前		1							兼 1		
Workshop: Music and Creativity II (ワークショップ:音楽と創造性実習Ⅱ)		1後 未開講		1							兼 1	通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27)	
Workshop: Music Composition for Western and Traditional Japanese Instruments (ワークショップ:洋楽器と和楽器のための作曲実習)		1前		1							兼 1		
Workshop: Interpretative Dance (ワークショップ:創作ダンス実習)		2後		1							兼 1		

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
H i s t o r y (歴 史 学) H u m a n i t i e s (人 文 教 養) P h i l o s o p h y & R e l i g i o u s S t u d i e s (哲 学 ・ 宗 教 学)	World History (世界史)	1前・後	3									平成28年4月から教育の充実を図るため、 後期に加え、前期にも開講する(28)	
	Japanese History (日本史)	2前		3									兼 1
	History of Technology in Japan (日本技術史)	2前		3									兼 1
	Philosophy, Culture & Civilization (哲学と文明・文化)	2後		3		1							
	History of Western Philosophy (西洋哲学史)	2前		3		1							
	History and Philosophy of Science (科学史・科学哲学)	2後		3		1							
	Creativity in the Sciences and the Arts (科学と学芸における創造性)	3・4前		3		1							
	Comparative Philosophy (比較哲学)	3・4前		3		1							
	Philosophy and Environmental Issues (哲学と環境問題)	3・4後		3		1							
	Seminar (Philosophy) (哲学演習)	4前・後		1		1							
	World Religions (世界の宗教)	3・4前		3								兼 1	
	Comparative Religious Studies (比較宗教学)	3・4前		3								兼 1	
	Spiritual Dimensions and Traditions in the Japanese Martial Arts (日本武道における精神的側面と伝統)	1後		3		1							
	Workshop: Practicing Zen (ワークショップ: 禅実習)	1後		1								兼 1	
	Workshop: Experiencing Shinto (ワークショップ: 神道体験)	1後		1								兼 1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
S o c i a l E c o n o m i c s (経 済 学) (社 会 科 学)	Microeconomics (ミクロ経済学)	1 後	3			0 -1	1					平成27年3月 REISMAN, David Alexander教授就任辞退 (27) 担当 生藤 昌子 (准教授) 平成27年6月 提出予定 平成27年9月 生藤 昌子准教授に担当者を変更 (AC教員審査済: 判定可) (28)
	Intermediate Microeconomics (中級ミクロ経済学)	2 後		3		0 -1	1					平成27年3月 REISMAN, David Alexander教授就任辞退 (27) 担当 生藤 昌子 (准教授) 平成27年6月 提出予定 平成27年9月 生藤 昌子准教授に担当者を変更 (AC教員審査済: 判定可) (28)
	Macroeconomics (マクロ経済学)	2 前		3		0 -1	1					平成27年3月 REISMAN, David Alexander教授就任辞退 (27) 担当 生藤 昌子 (准教授) 平成27年6月 提出予定 平成27年9月 生藤 昌子准教授に担当者を変更 (AC教員審査済: 判定可) (28)
	Japanese Economy & Business (日本経済とビジネス)	1 前 未開講		3		1						通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27)
	International Trade & Economics of Globalization (国際貿易とグローバル経済)	3・4 前		3		0 -1	1					平成27年3月 REISMAN, David Alexander教授就任辞退 (27) 担当 生藤 昌子 (准教授) 平成27年6月 提出予定 平成27年9月 生藤 昌子准教授に担当者を変更 (AC教員審査済: 判定可) (28)
	Entrepreneurship (起業・ベンチャー論)	3・4 前		3		1						
	Corporate Finance (コーポレートファイナンス)	3・4 前		3		1						
	Economic Growth: Theories and Evidence (経済成長: 理論と実証)	3・4 後		3		0 -1	1					平成27年3月 REISMAN, David Alexander教授就任辞退 (27) 担当 生藤 昌子 (准教授) 平成27年6月 提出予定 平成27年9月 生藤 昌子准教授に担当者を変更 (AC教員審査済: 判定可) (28)
	History of Economic Thought (経済思想史)	3・4 前		3		0 -1	1					平成27年3月 REISMAN, David Alexander教授就任辞退 (27) 担当 生藤 昌子 (准教授) 平成27年6月 提出予定 平成27年9月 生藤 昌子准教授に担当者を変更 (AC教員審査済: 判定可) (28)
	Money & Banking (金融論)	3・4 前		3		1						
	Japanese Economy & Business (in Japanese) (日本語による日本経済とビジネス)	3・4 後		3		1						
	Competitive Strategy (競争戦略)	3・4 後		3		1						
	Seminar (Economics) (経済学演習)	4 前・後		1		-2	1					平成27年3月 REISMAN, David Alexander教授就任辞退 (27) 担当 生藤昌子 (准教授) 平成27年6月 提出予定 平成27年9月 生藤 昌子准教授に担当者を変更 (AC教員審査済: 判定可) (28)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
Social Sciences (政治学)	Introduction to Political Science (政治学入門)	2前・後		3		0 -1						兼1 健康上の理由によりHREBENAR, Ronald John教授就任辞退 兼任として、原口幸司法学部法学科講師(兼担)に担当者を変更(28) 兼1 健康上の理由によりHREBENAR, Ronald John教授就任辞退 [後任未定]平成29年4月から専任教員採用予定で公募中 平成29年4月開設の科目のため現状において支障はない(28) 兼1 健康上の理由によりHREBENAR, Ronald John教授就任辞退 兼任として、原口幸司法学部法学科講師(兼担)に担当者を変更(28) 兼1 健康上の理由によりHREBENAR, Ronald John教授就任辞退 [後任未定]平成29年4月から専任教員採用予定で公募中 平成29年4月開設の科目のため現状において支障はない(28) 兼1 健康上の理由によりHREBENAR, Ronald John教授就任辞退 [後任未定]平成29年4月から専任教員採用予定で公募中 平成29年4月開設の科目のため現状において支障はない(28) 兼1 健康上の理由によりHREBENAR, Ronald John教授就任辞退 [後任未定]平成29年4月から専任教員採用予定で公募中 平成30年4月開設の科目のため現状において支障はない(28) 兼1 健康上の理由によりHREBENAR, Ronald John教授就任辞退 [後任未定]平成29年4月から専任教員採用予定で公募中 平成29年4月開設の科目のため現状において支障はない(28)
	Social Policy (社会政策)	2前		3								
	US Politics (アメリカ政治)	3・4前		3		1						
	Nationalism & Ethnic Conflict in Asia (ナショナリズムとアジアの民族紛争)	3・4前		3								
	Japanese Politics and International Relations (日本の政治と国際関係)	2後		3		0 -1						
	Global Politics (グローバル政治)	3・4後		3		0 -1						
	Comparative Political Systems (比較政治体制)	3・4前		3		0 -1						
	Seminar (Political Science) (政治学演習)	4前・後		1		0 -1						
	Workshop: Political Simulation Game (ワークショップ:政治シミュレーションゲーム)	3・4後	1			1 -2						
	Social Sciences (社会科学)	Workshop: Fuji Culture (ワークショップ:富士山と文化)	1前 未開講									
Social Theory (社会理論)		1前		1								
Methods of Social Research (社会調査方法論)		2前		3		1						
Sociology of Globalization (グローバル化の社会学)		2前		3								
Sociological Analysis of Nihonjinron (日本人論の社会的分析)		3・4前		3		1						
Cross-Culture Studies (比較文化研究)		2後		3		1						
Quantitative Research & Reasoning (数理的推論・科学研究)	Math for Liberal Arts (リベラルアーツのための数学)	3・4後 未開講		3		1 -1					通常開講(28) 履修希望者がいなかったため(27) 平成28年3月FLACHI, Antonino准教授辞職 平成28年4月 JHINGAN, Sanjay教授に担当者を変更 (AC教員審査済:判定可)(28) 通常開講(28) 履修希望者がいなかったため(27) 平成28年3月FLACHI, Antonino准教授辞職 平成28年4月 JHINGAN, Sanjay教授に担当者を変更 (AC教員審査済:判定可)(28) 通常開講(28) 履修希望者がいなかったため(27) 平成28年3月FLACHI, Antonino准教授辞職 平成28年4月 JHINGAN, Sanjay教授に担当者を変更 (AC教員審査済:判定可)(28) 通常開講(28) 履修希望者がいなかったため(27) 平成28年3月FLACHI, Antonino准教授辞職 平成28年4月 JHINGAN, Sanjay教授に担当者を変更 (AC教員審査済:判定可)(28) 通常開講(28) 履修希望者がいなかったため(27) 平成28年3月FLACHI, Antonino准教授辞職 平成28年4月 JHINGAN, Sanjay教授に担当者を変更 (AC教員審査済:判定可)(28)	
	College Algebra (大学代数学)	1前・後 未開講		3		1 -1						
	Calculus (微積分学)	2前		3		1 -1						
	Statistics (統計学)	2後		3		1 -1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
G u n t a r i a l S c i e n c e (自然科学)	Integrated Science (科学総合)	1前・後 未開講		3			1						通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27) 平成28年3月FLACHI, Antonino准教授退職 平成28年4月 JHINGAN, Sanjay教授に担当者を変更 (AC教員審査済: 判定可) (28)
	Integrated Science Laboratory (科学総合実験)	1前・後 未開講		1			1						通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27)
	Modern Physics (現代物理学)	2後		3			1						平成28年3月FLACHI, Antonino准教授退職 平成28年4月 JHINGAN, Sanjay教授に担当者を変更 (AC教員審査済: 判定可) (28)
	History of Biotechnology (バイオテクノロジーの歴史)	2前		3				1					
	Genetics (遺伝学)	3・4後		3				1					
	Genetics Laboratory (遺伝学実験)	3・4後		1				1					
Cell Biology Laboratory (細胞生物学実験)	3・4前		1				1						
H e a l t h & P h y s i c a l E d u c a t i o n (保健体育)	Health & Physical Education 1 (保健体育1) (種目: ナンパ式骨体操) (種目: 合気道) (種目: 柔道) (種目: 空手) (種目: 修験道)	1前・後 未開講	1				1						兼3 通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27)
	Health & Physical Education 2 (保健体育2) (種目: 合気道) (種目: 柔道) (種目: 空手)	1・2前・後 未開講		1			1						兼2 通常開講 (28) 履修希望者がいなかったため (27)

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任, 兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で, 前年度報告時(平成27年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し, 「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお, 昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については, 見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任, 兼担の教員が担当する授業科目については, 備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合, 専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては, 「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には, 「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について, 設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても, 設置認可時の状況を黒字で記入してください。また, 前年度報告時より修正があれば, 赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
9	123	1	133	9	125	1	135	
				[0]	[+2]	[0]	[+2]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに, [] 内に, 設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: Δ1)
- ・ 資格に関する課程など, 別課程としている授業科目については算入する必要はありません。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	未開講科目なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	廃止科目なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \text{該当なし。}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考				
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	山梨学院短期大学と共用				
	校 舎 敷 地	0 m ²	84,080 m ²	0 m ²	84,080 m ²					
	運 動 場 用 地	0 m ²	120,113 m ²	0 m ²	120,113 m ²					
	小 計	0 m ²	204,193 m ²	0 m ²	204,193 m ²					
	そ の 他	0 m ²	47,189 m ²	0 m ²	47,189 m ²					
	合 計	0 m ²	251,382 m ²	0 m ²	251,382 m ²					
(2) 校 舎	専 用	30,813.66 m ²	9,838.25 m ²	10,867.00 m ²	51,518.91 m ²	山梨学院短期大学と共用				
	(30,813.66 m ²)	(9,838.25 m ²)	(10,867.00 m ²)	(51,518.91 m ²)						
(3) 教 室 等	講 義 室	7 室	演 習 室	10 室	実験実習室	2 室	情報処理学習施設	0 室	語学学習施設	2 室
					(補助職員 0人)			(補助職員 2人)		
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数						
	国際リベラルアーツ学部 国際リベラルアーツ学科			28 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点			
	国際リベラル アーツ学部	40,471 [9,285] (39,808 [8,633])	96 [55] (41 [0])	2,101 [2,100] (2,101 [2,100])	5,208 (4,946)	1,899 (1,248)	0 (0)			
	計	40,471 [9,285] (39,808 [8,633])	96 [55] (41 [0])	2,101 [2,100] (2,101 [2,100])	5,208 (4,946)	1,899 (1,248)	0 (0)			
(6) 図 書 館	面 積	3,984.22 m ²	閱 覧 座 席 数	494席	収 納 可 能 冊 数	約 31万冊	山梨学院短期大学と共用			
	面 積	4,264.00 m ²	体育館以外のスポーツ施設の概要			3,008.77 m ²	武道館：大学専用			
(7) 体 育 館	面 積	4,264.00 m ²	武 道 館			3,008.77 m ²	武道館：大学専用			
	面 積	4,264.00 m ²	武 道 館			3,008.77 m ²	武道館：大学専用			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度		
		教員1人当たり研究費等	330千円	330千円	図書購入費	3,945千円	4,975千円	49千円		
	共同研究費等	400千円	400千円	設備購入費	233,147千円	59,289千円	0千円			
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,695千円	1,495千円	1,495千円	1,495千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、手数料収入、等。								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成28年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(28)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	山梨学院大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学員	収定容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
国際リベラルアーツ学部 国際リベラルアーツ学科	4	80	—	160	学士 (国際リベラルアーツ)	0.37	平成27年度	山梨県甲府市酒折二丁目4-5	
法学部	4	390	—	1,600	—	1.08	昭和37年度	同上	
法学科	4	200	—	970	学士 (法学)	1.08	昭和37年度	同上	
政治行政学科	4	170	—	680	学士 (政治行政学)	1.07	平成3年度	同上	
現代ビジネス学部 現代ビジネス学科	4	200	—	800	学士 (商学)	1.08	昭和40年度	同上	
経営情報学部 経営情報学科	4	—	—	—	学士 (経営情報学)	—	平成6年度	同上	平成28年度より学生募集停止
健康栄養学部 管理栄養学科	4	40	3年次10	180	学士 (栄養学)	1.15	平成22年度	同上	
スポーツ科学部 スポーツ科学科	4	170	—	170	学士 (スポーツ科学)	1.12	平成28年度	同上	
大学の名称	山梨学院大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学員	収定容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
社会科学研究科 公共政策専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士 (公共政策)	0.77	平成7年度	山梨県甲府市酒折二丁目4-5	
法務研究科 法務専攻 (専門職学位課程： 法科大学院)	3	—	—	—	法務博士 (専門職)	—	平成16年度	同上	平成28年度より学生募集停止

大学の名称	山梨学院短期大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 員	学位又 は 称 号	平均入 学 定 員 超 過 率	開 年 設 度	所 在 地	
食物栄養科	2 年	110 人	— 年 次 人	220 人	短期大学士 (食物栄養学)	1.03 倍	昭和23年度	山梨県甲府市酒折二丁目4-5	
保育科	2	150	—	300	短期大学士 (保育学)	1.14	昭和42年度	同上	
専攻科 保育専攻	2	15	—	30	—	1.20	平成14年度	同上	大学評価・学位授与機構の 認定専攻科（平成14年4月）

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部，学科），大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について，それぞれの学校種ごとに，平成28年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等，「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には，課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお，課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は，法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」，短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては，記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には，標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合，入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし，「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<国際リベラルアーツ学部 国際リベラルアーツ学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	LACKTORIN, Michael John (64)	平成27年4月	Critical Thinking & Debate (批判的思考とディベート) Japanese Economy & Business (日本経済とビジネス) Corporate Finance (コーポレートファイナンス) Money & Banking (金融論) Competitive Strategy (競争戦略) Seminar (Economics) (経済学演習) Graduation Research Project (卒業研究)						
専	教授	ETZRODT, Christian (46)	平成27年4月	Critical Thinking & Debate (批判的思考とディベート) Introduction to World Issues (国際問題入門) Social Theory (社会理論) Sociology of Globalization (グローバル化の社会学) Sociological Analysis of Nihonjinron (日本人論の社会学的分析) Cross-Culture Studies (比較文化研究) Seminar (Sociology) (社会学演習) Graduation Research Project (卒業研究) Workshop: Political Simulation Game (ワークショップ: 政治シミュレーションゲーム)						

専	教授	須賀 等 (63)	平成28年4月	<p>Career Design 1※ (キャリア・デザイン1)</p> <p>Career Design 2※ (キャリア・デザイン2)</p> <p>Internship (インターンシップ)</p> <p>Entrepreneurship (起業・ベンチャー論)</p> <p>Japanese Economy & Business (in Japanese) (日本語による日本経済とビジネス)</p>						
専	教授	RECORD, Kirby Alison (67)	平成27年4月	<p>English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A)</p> <p>English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B)</p> <p>Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース)</p> <p>Composition 1 (英作文1)</p> <p>Composition 2 (英作文2)</p> <p>Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング)</p> <p>Expository Research Writing (リサーチ・ライティング)</p> <p>Introduction to Language Concepts (言語概念入門)</p> <p>Literature Appreciation (文学鑑賞)</p> <p>Lyric Poetry (叙情詩)</p> <p>Major Themes in World Literature (世界の文学の主要テーマ)</p> <p>Comparative Literature Studies (比較文学研究)</p> <p>Creative Writing Across Genres (領域横断型クリエイティブ・ライティング)</p> <p>Advanced Expository Writing (英作文上級)</p> <p>Seminar (Language Arts) (英語演習)</p> <p>Graduation Research Project (卒業研究)</p>						

専	教授	ASHMORE, Darren Jon (46)	平成27年4月	Western Film & Theater (西洋映画・演劇) Japanese Film & Theater (日本映画・演劇) Manga & Anime Studies (マンガ・アニメーション学) Film History (映画史) Japanese Traditional Theater (日本の伝統演劇) Comparative Theater Aesthetics (比較演劇美学) Seminar (Performing Arts) (芸能演習) Graduation Research Project (卒業研究)													
専	教授	OLAGBOYEGA, Kolawole Waziri (46)	平成27年4月	English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A) English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B) Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース) Composition 1 (英作文1) Composition 2 (英作文2) Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング) Expository Research Writing (リサーチ・ライティング) Introduction to Language Concepts (言語概念入門) Sociolinguistics (社会言語学) World Englishes (世界の英語) Advanced Expository Writing (英作文上級) Seminar (Language Arts) (英語演習) Graduation Research Project (卒業研究)													

専	教授	ROZYCKI, William Vincent (65)	平成27年4月	<p>English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A)</p> <p>English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B)</p> <p>Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース)</p> <p>Composition 1 (英作文1)</p> <p>Composition 2 (英作文2)</p> <p>Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング)</p> <p>Expository Research Writing (リサーチ・ライティング)</p> <p>Advanced Expository Writing (英作文上級)</p> <p>English Communication for the Workplace (職場での英語コミュニケーション)</p>													
専	教授	NILSON, Donald Richard (71)	平成28年4月	<p>Philosophy, Culture & Civilization (哲学と文明・文化)</p> <p>History of Western Philosophy (西洋哲学史)</p> <p>History and Philosophy of Science (科学史・科学哲学)</p> <p>Creativity in the Sciences and the Arts (科学と学芸における創造性)</p> <p>Comparative Philosophy (比較哲学)</p> <p>Philosophy and Environmental Issues (哲学と環境問題)</p> <p>Seminar (Philosophy) (哲学演習)</p> <p>Graduation Research Project (卒業研究)</p>													

専	教授	REED, William Everard (62)	平成27年4月	<p>Critical Thinking & Debate (批判的思考とディベート)</p> <p>The Art of Making Presentations (プレゼンテーション技術)</p> <p>Critical and Creative Thinking (批判的・創造的思考技術)</p> <p>Career Design 1※ (キャリア・デザイン1)</p> <p>Career Design 2※ (キャリア・デザイン2)</p> <p>Workshop: Calligraphy (ワークショップ:書道実習)</p> <p>Spiritual Dimensions and Traditions in the Japanese Martial Arts (日本武道に在る精神的側面と伝統)</p> <p>Health & Physical Education 1 (Nanba) (保健体育1(種目:ナンバ式骨体操))</p> <p>Health & Physical Education 1 (Aikido) (保健体育1(種目:合気道))</p> <p>Health & Physical Education 2 (Aikido) (保健体育2(種目:合気道))</p>						
専	教授	HREBENAR, Ronald John (71)	平成28年4月	<p>Introduction to Political Science (政治学入門)</p> <p>Japanese Politics and International Relations (日本の政治と国際関係)</p> <p>US Politics (アメリカ政治)</p> <p>Global Politics (グローバル政治)</p> <p>Comparative Political Systems (比較政治体制)</p> <p>Seminar (Political Science) (政治学演習)</p> <p>Graduation Research Project (卒業研究)</p> <p>Workshop: Political Simulation Game (ワークショップ:政治シミュレーションゲーム)</p>	兼任 講師	原口 幸司 (47)	平成28年4月	<p>Introduction to Political Science (政治学入門)</p> <p>Japanese Politics and International Relations (日本の政治と国際関係)</p>	<p>平成28年1月 HREBENAR, Ronald John教授健康上の理由により就任辞退のため、平成28年度より担当者の変更(28)</p> <p>平成28年1月 HREBENAR, Ronald John教授健康上の理由により就任辞退(28)</p> <p>【後任未定】平成29年4月から専任教員採用予定で公募中。 「US Politics (アメリカ政治)」 「Global Politics (グローバル政治)」 「Comparative Political Systems (比較政治体制)」 「Seminar (Political Science) (政治学演習)」 「Graduation Research Project (卒業研究)」 「Workshop: Political Simulation Game (ワークショップ:政治シミュレーションゲーム)」は平成29年4月以降の開講予定科目のため、平成28年度は支援はない。</p>	

専	教授	REISMAN, David Alexander (72)	平成27年9月	<p>Microeconomics (ミクロ経済学)</p> <p>Intermediate Microeconomics (中級ミクロ経済学)</p> <p>Macroeconomics (マクロ経済学)</p> <p>International Trade & Economics of Globalization (国際貿易とグローバル経済)</p> <p>Economic Growth: Theories and Evidence (経済成長：理論と実証)</p> <p>History of Economic Thought (経済思想史)</p> <p>Seminar (Economics) (経済学演習)</p> <p>Graduation Research Project (卒業研究)</p>	専	准教授	生藤 昌子 (53)	平成27年9月	<p>Microeconomics (ミクロ経済学)</p> <p>Intermediate Microeconomics (中級ミクロ経済学)</p> <p>Macroeconomics (マクロ経済学)</p> <p>International Trade & Economics of Globalization (国際貿易とグローバル経済)</p> <p>Economic Growth: Theories and Evidence (経済成長：理論と実証)</p> <p>History of Economic Thought (経済思想史)</p> <p>Seminar (Economics) (経済学演習)</p> <p>Graduation Research Project (卒業研究)</p>	<p>平成27年3月 REISMAN, David Alexander 教授就任辞退 (27)</p> <p>平成27年6月 生藤 昌子 准教授 (新規採用) 変更書提出予定</p> <p>平成27年7月 AC教員審査済 (28)</p>
専	准教授	當眞 正裕 (45)	平成27年4月	<p>Elementary Japanese 1 (日本語初級1)</p> <p>Elementary Japanese 2 (日本語初級2)</p> <p>Elementary Japanese 3 (日本語初級3)</p> <p>Intermediate Japanese 1 (日本語中級1)</p> <p>Intermediate Japanese 2 (日本語中級2)</p> <p>Advanced Japanese (日本語上級)</p> <p>Professional Writing in Japanese (社会人としての日本語作文)</p> <p>Reading Japanese Newspapers (日本語新聞読解)</p> <p>Public Speech in Japanese (日本語スピーチ)</p> <p>Workshop: Experiencing Teaching Japanese (ワークショップ：日本語教育体験/観察)</p>	専	准教授	當眞 正裕 (45)	平成27年4月	<p>Elementary Japanese 1 (日本語初級1)</p> <p>Elementary Japanese 2 (日本語初級2)</p> <p>Elementary Japanese 3 (日本語初級3)</p> <p>Intermediate Japanese 1 (日本語中級1)</p> <p>Intermediate Japanese 2 (日本語中級2)</p> <p>Advanced Japanese (日本語上級)</p> <p>Professional Writing in Japanese (社会人としての日本語作文)</p> <p>Reading Japanese Newspapers (日本語新聞読解)</p> <p>Public Speech in Japanese (日本語スピーチ)</p> <p>Workshop: Experiencing Teaching Japanese (ワークショップ：日本語教育体験/観察)</p> <p>Shortcuts to Kanji (漢字演習)</p> <p>Kanji in Contexts (文脈の中の漢字)</p>	<p>平成28年4月から教育課程の充実を図るため科目を追加</p> <p>平成28年1月 AC教員審査済 (28)</p>

専	准教授	VELASCO, Daniel Ray (41)	平成27年4月	English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A) English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B) Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース) Composition 1 (英作文1) Composition 2 (英作文2) Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング) Expository Research Writing (リサーチ・ライティング) English Communication for the Workplace (職場での英語コミュニケーション)						
専	准教授	FURFARO, Paul Vincent (51)	平成27年4月	English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A) English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B) Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース) Composition 1 (英作文1) Composition 2 (英作文2) Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング) Expository Research Writing (リサーチ・ライティング) Advanced Expository Writing (英作文上級) English Communication for the Workplace (職場での英語コミュニケーション)						
専	准教授	SHIGEMATSU, Brandon Kenji (49)	平成27年4月	English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A) English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B) Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース) Composition 1 (英作文1) Composition 2 (英作文2) Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング) Expository Research Writing (リサーチ・ライティング) Advanced Expository Writing (英作文上級)	専	准教授	RAFIEYAN, Vahid (36)	平成27年9月	English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A) English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B) Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース) Composition 1 (英作文1) Composition 2 (英作文2) Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング) Expository Research Writing (リサーチ・ライティング) Advanced Expository Writing (英作文上級)	平成27年2月 SHIGEMATSU, Brandon Kenji准教授就任辞退 (27) 平成27年6月 RAFIEYAN, Vahid 准教授(新規採用) 変更書提出予定 平成27年7月 AC教員審査済(28)

専	准教授	SIGMAN, Alexander Theodore (34)	平成27年4月	<p>How We Listen to Music: Foundations of Music Perception, Cognition, and Acoustics (音楽聴覚: 知覚認知と音響 学の基礎)</p> <p>History of Western Music (西洋音楽史)</p> <p>Introduction to Music Technology (音楽技術入門)</p> <p>History of Modern Music (近代音楽の歴史)</p> <p>Music Fundamentals: Harmony, Musicianship, and Arranging (音楽基礎: 和声、音楽 的能力、編曲)</p> <p>Music and Other Media: Interdisciplinary Perspectives (音楽と他のメディア: 学際的視点)</p> <p>Seminar (Music) (音楽演習)</p> <p>Graduation Research Project (卒業研究)</p> <p>Workshop: Music Practice I (Improvisation Ensemble) (ワークショップ: 音楽実習 I (即興アンサンブル))</p>						
専	准教授	WILDS, Alexander (60)	平成27年4月	<p>Art Appreciation (美術鑑賞)</p> <p>History of Western Art (西洋美術史)</p> <p>Japanese Art (日本美術)</p> <p>Traditional Japanese Handicraft (日本の伝統的手工 芸)</p> <p>Comparative Art Studies (比較美術研究)</p> <p>Seminar (Arts) (芸術演習)</p> <p>Graduation Research Project (卒業研究)</p> <p>Workshop: Sculpting I (ワークショップ: 彫 刻実習 I)</p> <p>Workshop: Sculpting II (ワークショップ: 彫 刻実習 II)</p>						
専	准教授	FLACHI, Antonino (43)	平成27年4月	<p>Integrated Science※ (科学総合)</p> <p>Math for Liberal Arts (リベラルアーツのた めの数学)</p> <p>College Algebra (大学代数学)</p> <p>Calculus (微積分学)</p> <p>Statistics (統計学)</p> <p>Modern Physics (現代物理学)</p>	専	教授	JHINGAN, Sanjay (45)	平成28年4月	<p>Integrated Science※ (科学総合)</p> <p>Math for Liberal Arts (リベラルアーツのた めの数学)</p> <p>College Algebra (大学代数学)</p> <p>Calculus (微積分学)</p> <p>Statistics (統計学)</p> <p>Modern Physics (現代物理学)</p>	平成28年3月 FLACHI, Antonino 准教授辞職 平成28年1月 AC教員審査済 (28)

専	准教授	LASSALLE, Michael Wolfgang (46)	平成27年4月	Integrated Science※ (科学総合) Integrated Science Laboratory (科学総合実験) History of Biotechnology (バイオテクノロジーの歴史) Genetics (遺伝学) Genetics Laboratory (遺伝学実験) Cell Biology Laboratory (細胞生物学実験)						
専	講師	FENTON, Anthony Lawrence (56)	平成27年4月	English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A) English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B) Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース) Composition 1 (英作文1) Composition 2 (英作文2) Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング) Expository Research Writing (リサーチ・ライティング)			後任未定			平成28年4月 FENTON, Anthony Lawrence 講師辞職 (28) 「後任未定」平成29年4月から専任教員採用予定で公募中。 FENTON, Anthony Lawrence講師の担当科目は他に担当者が複数いるため、平成28年度は支障はない。
専	講師	PATTERSON, Donald Glen (39)	平成27年4月	English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A) English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B) Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース) Composition 1 (英作文1) Composition 2 (英作文2) Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング) Expository Research Writing (リサーチ・ライティング)			後任未定			平成28年3月 PATTERSON, Donald Glen 講師辞職 (28) 「後任未定」平成29年4月から専任教員採用予定で公募中。 PATTERSON, Donald Glen講師の担当科目は他に担当者が複数いるため、平成28年度は支障はない。

専	講師	COLLINS, Brett Thaxton (46)	平成27年4月	<p>English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A)</p> <p>English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B)</p> <p>Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース)</p> <p>Composition 1 (英作文1)</p> <p>Composition 2 (英作文2)</p> <p>Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング)</p> <p>Expository Research Writing (リサーチ・ライティング)</p>						
専	講師	BROWN, Jonathan David (30)	平成27年4月	<p>English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A)</p> <p>English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B)</p> <p>Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース)</p> <p>Composition 1 (英作文1)</p> <p>Composition 2 (英作文2)</p> <p>Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング)</p> <p>Expository Research Writing (リサーチ・ライティング)</p>						
専	講師	SPADA, Cynthia Marie (40)	平成27年4月	<p>Composition 1 (英作文1)</p> <p>Composition 2 (英作文2)</p> <p>Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング)</p> <p>Expository Research Writing (リサーチ・ライティング)</p> <p>Literature Appreciation (文学鑑賞)</p> <p>Major Themes in World Literature (世界の文学の主要テーマ)</p> <p>Comparative Literature Studies (比較文学研究)</p> <p>Creative Writing Across Genres (領域横断型クリエイティブ・ライティング)</p> <p>Advanced Expository Writing (英作文上級)</p>						

専	講師	今城 淳 (35)	平成28年 4月	Elementary Japanese 1 (日本語初級1) Elementary Japanese 2 (日本語初級2) Elementary Japanese 3 (日本語初級3) Intermediate Japanese 1 (日本語中級1) Intermediate Japanese 2 (日本語中級2) Advanced Japanese (日本語上級) Professional Writing in Japanese (社会人としての日本語作文) Reading Japanese Newspapers (日本語新聞読解) Public Speech in Japanese (日本語スピーチ) Workshop: Experiencing Teaching Japanese (ワークショップ: 日本語教育体験/観察)	専	講師	今城 淳 (35)	平成28年 4月	Elementary Japanese 1 (日本語初級1) Elementary Japanese 2 (日本語初級2) Elementary Japanese 3 (日本語初級3) Intermediate Japanese 1 (日本語中級1) Intermediate Japanese 2 (日本語中級2) Advanced Japanese (日本語上級) Professional Writing in Japanese (社会人としての日本語作文) Reading Japanese Newspapers (日本語新聞読解) Public Speech in Japanese (日本語スピーチ) Workshop: Experiencing Teaching Japanese (ワークショップ: 日本語教育体験/観察)	Shortcuts to Kanji (漢字演習) Kanji in Contexts (文脈の中の漢字)	平成28年4月から 教育課程の充実を図る ため科目を追加 平成28年 1月 AC教員審査済 (28)
専	講師	花城 可武 (46)	平成28年 9月	Elementary Japanese 1 (日本語初級1) Elementary Japanese 2 (日本語初級2) Elementary Japanese 3 (日本語初級3) Intermediate Japanese 1 (日本語中級1) Intermediate Japanese 2 (日本語中級2) Advanced Japanese (日本語上級) Professional Writing in Japanese (社会人としての日本語作文) Reading Japanese Newspapers (日本語新聞読解) Public Speech in Japanese (日本語スピーチ) Workshop: Experiencing Teaching Japanese (ワークショップ: 日本語教育体験/観察)	専	講師	花城 可武 (46)	平成28年 9月	Elementary Japanese 1 (日本語初級1) Elementary Japanese 2 (日本語初級2) Elementary Japanese 3 (日本語初級3) Intermediate Japanese 1 (日本語中級1) Intermediate Japanese 2 (日本語中級2) Advanced Japanese (日本語上級) Professional Writing in Japanese (社会人としての日本語作文) Reading Japanese Newspapers (日本語新聞読解) Public Speech in Japanese (日本語スピーチ) Workshop: Experiencing Teaching Japanese (ワークショップ: 日本語教育体験/観察)	Shortcuts to Kanji (漢字演習) Kanji in Contexts (文脈の中の漢字)	平成28年4月から 教育課程の充実を図る ため科目を追加 平成28年 1月 AC教員審査済 (28)

兼任	教授	原 百年 (46)	平成27年4月	Nationalism & Ethnic Conflict in Asia (ナショナリズムとアジアの民族紛争) Workshop: Fuji Culture (ワークショップ: 富士山と文化)						
兼任	教授	西田 孝宏 (58)	平成27年4月	Health & Physical Education 1 (Judo) (保健体育1 (種目: 柔道)) Health & Physical Education 2 (Judo) (保健体育2 (種目: 柔道))						
兼任	講師	片田 貴士 (34)	平成27年9月	Health & Physical Education 1 (Karate) (保健体育1 (種目: 空手)) Health & Physical Education 2 (Karate) (保健体育2 (種目: 空手))						
兼任	講師	MELZER, Jürgen Paul (55)	平成27年9月	World History (世界史) Japanese History (日本史) History of Technology in Japan (日本技術史)						
兼任	講師	村山 由美 (40)	平成29年4月	World Religions (世界の宗教) Comparative Religious Studies (比較宗教学)						
兼任	講師	LARATTA, Rosario (38)	平成28年4月	Social Policy (社会政策) Methods of Social Research (社会調査方法論)						
兼任	講師	NEWTON, Kristin (66)	平成27年4月	Workshop: Drawing I (ワークショップ: 絵画実習 I) Workshop: Drawing II (ワークショップ: 絵画実習 II)						
兼任	講師	鶴田 宗慶 (慶子) (78)	平成27年4月	Workshop: Traditional Japanese Culture※ (ワークショップ: 日本の伝統的文化実習)						
兼任	講師	鶴田 一香 (信俊) (78)	平成27年4月	Workshop: Traditional Japanese Culture※ (ワークショップ: 日本の伝統的文化実習)						
兼任	講師	FARNSWORTH, Brett Jonathan (38)	平成27年4月	Workshop: Acting I (ワークショップ: 演技実習 I) Workshop: Acting II (ワークショップ: 演技実習 II) Workshop: Directing (ワークショップ: 演劇監督実習)						
兼任	講師	佐藤 寛泰 (28)	平成27年4月	Workshop: Noh Theater (ワークショップ: 能実習)						

兼任	講師	仁科 彩 (彩香) (34)	平成28年9月	Workshop: Music Practice II (Keyboards) (ワークショップ: 音楽実習II (キーボード)) Workshop: Music Practice III (Choral Ensemble) (ワークショップ: 音楽実習III (合唱アンサンブル))						
兼任	講師	DONAHUE, Timothy Joel (56)	平成27年4月	Workshop: Music and Creativity I (ワークショップ: 音楽と創造性実習I) Workshop: Music and Creativity II (ワークショップ: 音楽と創造性実習II)						
兼任	講師	佐藤 聡明 (68)	平成27年4月	Workshop: Music Composition for Western and Traditional Japanese Instruments (ワークショップ: 洋楽器と和楽器のための作曲実習)						
兼任	講師	吉村 七重 (65)	平成27年9月	Workshop: Music Practice IV (Japanese Koto) (ワークショップ: 音楽実習IV (琴))						
兼任	講師	武井 慧子 (76)	平成28年9月	Workshop: Interpretative Dance (ワークショップ: 創作ダンス実習)						
兼任	講師	樋口星太郎 (35)	平成27年9月	Workshop: Practicing Zen (ワークショップ: 禅実習)						
兼任	講師	七沢 賢治 (67)	平成27年9月	Workshop: Experiencing Shinto (ワークショップ: 神道体験)						
兼任	講師	長谷川 智 (57)	平成27年4月	Health & Physical Education 1 (Shugendo) (保健体育1 (種目: 修験道))						
兼任	講師	中村 明一 (60)	平成27年9月	Japanese Traditional Music (日本の伝統音楽) Workshop: Music Practice V (Shakuhachi) (ワークショップ: 音楽実習V (尺八))						
					兼任	講師	秋山 満貴 (47)	平成27年9月	Elementary Japanese 1 (日本語初級1) Elementary Japanese 2 (日本語初級2) Elementary Japanese 3 (日本語初級3)	平成27年9月から教育課程の充実を図るため兼任講師1人を追加

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇学部 △学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には**当該学部等の就任時における満年齢**を、「**変更状況**」には**平成28年5月1日現在の満年齢**を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
11	8	7	0	26	10	8	5	0	23	10	8	7	0	25
(7)	(8)	(5)	(0)	(20)	[Δ1]	[0]	[Δ2]	[0]	[Δ3]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[Δ1]

- (注) ・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ② 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記（A））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（B））の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	3 名	5 名

- (注) ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成28年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
1	教授	REISMAN, David Alexander	必修	Microeconomics (ミクロ経済学)	①	現職であるシンガポール南洋理工大学 (Nanyang Technological University) 人文・社会科学部経済学科教授を平成27年8月末に退職のうえ同年9月付で本学に就任すると契約であったが、平成27年3月、本人より電子メールにて一方的に就任を辞退する旨の通知が送致された（電子メールには「就任承諾書」に手書きで大きく「×印」が付されたpdfファイルが添付されていた）。就任承諾に係る契約の一方的な破棄であり、以降、本学は再三にわたり本人及び所属大学に国際電話、電子メール、文書送付等の複数の連絡方法を用いて遺留、及び就任辞退は契約違反である旨の通知を行ったが、(1) 本人は本学からの全ての通知を無視、(2) 所属大学は「本人に取り次げない」「シンガポール南洋理工大学を退職する予定はない」との回答に始終、と、一切の回答を拒絶したため、同教授の就任を諦めざるを得なかった。なお、設置認可申請書に添付の同教授に係る「就任承諾書」に関しては、就任の内諾を得る際に、和文での表記内容を英文に翻訳のうえ示すとともに、同書面は法的には「雇用契約書と同等」の性格を有している旨、十二分な説明を行っている。以上の理由のため就任辞退。(27) 後任は、生藤昌子准教授を平成27年9月付で採用した（平成27年7月、AC教員審査済）(28)
			選択	Intermediate Microeconomics (中級ミクロ経済学)	①	
			選択	Macroeconomics (マクロ経済学)	①	
			選択	International Trade & Economics of Globalization (国際貿易とグローバル経済)	①	
			選択	Economic Growth: Theories and Evidence (経済成長：理論と実証)	①	
			選択	History of Economic Thought (経済思想史)	①	
			選択	Seminar (Economics) (経済学演習)	①	
			必修	Graduation Research Project (卒業研究)	①	
2	准教授	Shigematsu, Brandon Kenji	選択	English for Academic Excellence : A (アカデミック英語：A)	①	現職である米国サウスウエスタン・イリノイ・カレッジ (Southwestern Illinois College) ESL (English as a Second Language) プログラムディレクターを辞して、平成27年4月（開設時）より本学に就任すると契約であったが、平成27年2月、本人より電子メール及び国際電話にて、家庭の事情により（日本国内に居住する親族との関係が悪化し、また係る事実により本学に多大な迷惑をかけることが懸念されるため）就任できない旨の通知がなされた。また、本人の就任辞退の申し出と前後して、神奈川県内に居住するという同准教授の親族を名乗る方より、本学に対して、本学国際リベラルアーツ学部設置認可後に整備したWebコンテンツにおいて「SHIGEMATSU, Brandon Kenji」の名前を見たが、「本人が親族にこれまで行った行為に基づき日本には絶対に入国させない」などの怪電話が、数回にわたりもたらされている（具体的な電話の内容に関しては、同准教授・親族間のプライバシーの問題もあり割愛する）。本学は本人に対し、国際電話、電子メール、文書送付等の複数の連絡方法を用いて、再三にわたり遺留を行ったが、本人の就任辞退の意思は固く、結果、これを認めざるを得なかった。以上の理由のため就任辞退。(27) 後任は、RAFIEYAN, Vahid准教授を平成27年9月付で採用した（平成27年7月、AC教員審査済）(28)
			必修	English for Academic Excellence : B (アカデミック英語：B)	①	
			選択	Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース)	①	
			選択	Composition 1 (英作文1)	①	
			選択	Composition 2 (英作文2)	①	
			選択	Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング)	①	
			選択	Expository Research Writing (リサーチ・ライティング)	①	
			選択	Advanced Expository Writing (英作文上級)	①	

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由							
3	教授	HREBENAR, Ronald John	選択	Introduction to Political Science (政治学入門)	②	<p>明治大学、大東文化大学、国際教養大学において客員教授を応職した経歴を有するHREBENAR, Ronald John教授は、米国ユタ大学 (University of Utah) での任期を終えた後、本学国際リベラルアーツ学部へ就任する予定として、親日家である本人も就任を切望していたが、本年2月、重篤な病床に伏し、わが国への渡航すら困難になったことから、本人より就任を辞退したい旨の申し出があり、これを認めざるを得なかった。</p> <p>以上の理由のため就任辞退。</p> <p>なお、平成28年度開設予定の授業科目「Introduction to Political Science (政治学入門)」「Japanese Politics and International Relations (日本の政治と国際関係)」に関しては、法学部法学科に平成28年4月付で採用した原口幸司講師が英語バイリンガルであり、米国の大学において兼任講師として政治学、国際関係学に係る授業を担当した経歴を有していたことから、学内の人事手続に則り審査のうえ、同講師を兼任として担当させることとした。</p> <p>また、平成29年度以降の予定科目に関しては、今年度中に後任を公募し、必要な手続を経て補充を行う予定としている。(28)</p>							
			選択	Japanese Politics and International Relations (日本の政治と国際関係)	②								
			選択	US Politics (アメリカ政治)	③								
			選択	Global Politics (グローバル政治)	③								
			選択	Comparative Political Systems (比較政治体制)	③								
			選択	Seminar (Political Science) (政治学演習)	③								
			必修	Graduation Research Project (卒業研究)	③								
			必修	Workshop: Political Simulation Game (ワークショップ: 政治シミュレーションゲーム)	③								
合計 (A)				後任補充状況の集計 (B)									
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
3	人	必修	5	科目	必修	3	科目	必修	0	科目	必修	2	科目
		選択	19	科目	選択	13	科目	選択	2	科目	選択	4	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	24	科目	計	16	科目	計	2	科目	計	6	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) ①専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	准教授	FLACHI, Antonino	選択	Integrated Science※ (科学総合)	①	FLACHI, Antonino准教授は、設置計画通り平成27年4月1日付で就任したが、平成27年10月、本人より平成27年度末(平成28年3月31日付)を以って退職したい旨の意向が示された。本学は再三にわたり遺留を行ったが、本人の辞任の意思は固く、結果、これを認めざるを得なかった。 以上の理由のため辞任。 後任は、JHINGAN, Sanjay教授を平成28年4月付で採用した(平成28年1月、AO教員審査済)。(28)
			選択	Math for Liberal Arts (リベラルアーツのための数学)	①	
			選択	College Algebra (大学代数学)	①	
			選択	Calculus (微積分学)	①	
			選択	Statistics (統計学)	①	
			選択	Modern Physics (現代物理学)	①	
2	講師	FENTON, Anthony Lawrence	選択	English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A)	③	FENTON, Anthony Lawrence講師は、設置計画通り平成27年4月1日付で就任したが、平成28年4月、同年度の開始早々、唐突に本人より直ちに退職したい旨の意向が示された。国内の複数の大学において兼任講師としての職歴を有する同講師に対し、本学は再三にわたり(1)雇用契約内容の確認を促し、(2)遺留するよう説得を行ったが、本人の辞任の意思は固く、結果、これを認めざるを得なかった。 以上の理由のため辞任。 なお、平成29年度以降の担当教員に関しては、FENTON, Anthony Lawrence講師が担当していた科目に係る他の専任担当教員数が充実しているところから、今年度中に後任の補充方法について検討のうえ、平成29年度の開始までに、必要となる手続を行う予定としている。(28)
			必修	English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B)	③	
			選択	Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース)	③	
			選択	Composition 1 (英作文1)	③	
			選択	Composition 2 (英作文2)	③	
			選択	Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング)	③	
			選択	Expository Research Writing (リサーチ・ライティング)	③	
3	講師	PATTERSON, Donald Glen	選択	English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A)	③	PATTERSON, Donald Glen講師は、設置計画通り平成27年4月1日付で就任したが、平成28年3月末、唐突に本人より直ちに退職したい旨の意向が示された。国内の複数の大学において兼任講師としての職歴を有する同講師に対し、本学は再三にわたり(1)雇用契約内容の確認を促し、(2)遺留するよう説得を行ったが、本人の辞任の意思は固く、結果、これを認めざるを得なかった。 以上の理由のため辞任。 なお、平成29年度以降の担当教員に関しては、PATTERSON, Donald Glen講師が担当していた科目に係る他の専任担当教員数が充実しているところから、今年度中に後任の補充方法について検討のうえ、平成29年度の開始までに、必要となる手続を行う予定としている。(28)
			必修	English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B)	③	
			選択	Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース)	③	
			選択	Composition 1 (英作文1)	③	
			選択	Composition 2 (英作文2)	③	
			選択	Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング)	③	
			選択	Expository Research Writing (リサーチ・ライティング)	③	

合計 (C)			後任補充状況の集計 (D)					
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
3 人	必修	2 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	2 科目
	選択	18 科目	選択	6 科目	選択	0 科目	選択	12 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	20 科目	計	6 科目	計	0 科目	計	14 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した**全ての専任教員**の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

上記(3)－① ・ (3)－② の合計

合計 (A) + (C)			後任補充状況の集計 (B) + (D)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
6 人	必修	7 科目	必修	3 科目	必修	0 科目	必修	4 科目
	選択	37 科目	選択	19 科目	選択	2 科目	選択	18 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	44 科目	計	22 科目	計	2 科目	計	20 科目

- (注) ・ **就任辞退(未就任)及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。**

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

・大学の所見

REISMAN, David Alexander教授及びSHIGEMATSU, Brandon Kenji准教授の就任辞退の後、速やかに交代教員の公募を行い、結果、REISMAN, David Alexander教授の後任として(1)生藤昌子氏(52歳)を准教授として、SHIGEMATSU, Brandon Kenji准教授の後任として(2)RAFIEYAN, Vahid氏(36歳)を准教授として、それぞれ平成27年9月就任予定として、平成27年度第2回のAC教員審査(書類提出締切:6月12日(金))の対象として受審することを予定している。

(1)生藤昌子氏(52歳)に関しては、就任を辞退したREISMAN, David Alexander教授が担当予定であった全ての科目(「Microeconomics(ミクロ経済学)」「Intermediate Microeconomics(中級ミクロ経済学)」「Macroeconomics(マクロ経済学)」「International Trade & Economics of Globalization(国際貿易とグローバル経済)」「Economic Growth: Theories and Evidence(経済成長:理論と実証)」「History of Economic Thought(経済思想史)」「Seminar(Economics)(経済学演習)」「Graduation Research Project(卒業研究)」)を担当することとして、AC教員審査を受審したいと考えている。なお、従前のREISMAN, David Alexander教授の就任予定年月と同時期の就任として予定しているため、授業科目の運営上の支障はないと考えている。また、教授であるREISMAN, David Alexander氏の後任を准教授としたのは、後述「6 留意事項等」の「開設時の留意事項2」としてご指摘いただいているとおり、経済学分野においても、設置計画上の教員が、既就任のLACKTORIN, Michael John教授(学部長)の64歳と、REISMAN, David Alexander教授の72歳と、2名ともに高齢で、年齢構成が高齢に傾斜していることに鑑みたものである(設置基準上の専任教員数及び教授の数は、この交代計画においても遵守されている)。また、生藤氏は女性であるところから、国際リベラルアーツ学部における女性教員の割合を増加させることにもつながると考えている。

(2)RAFIEYAN, Vahid氏(36歳)に関しては、就任を辞退したSHIGEMATSU, Brandon Kenji准教授が担当予定であった全ての科目(「English for Academic Excellence: A(アカデミック英語:A)」「English for Academic Excellence: B(アカデミック英語:B)」「Academic Study Abroad Preparatory Course(留学準備コース)」「Composition 1(英作文1)」「Composition 2(英作文2)」「Academic Reading Across Disciplines(分野横断型アカデミック・リーディング)」「Expository Research Writing(リサーチ・ライティング)」「Advanced Expository Writing(英作文上級)」)を担当することとして、AC教員審査を受審したいと考えている。なお、従前のSHIGEMATSU, Brandon Kenji准教授の就任予定年月が平成27年4月、RAFIEYAN, Vahid准教授の就任予定年月が平成27年9月と差異があるものの、平成27年4月の入学者数が入学定員80人に対し27人と少なかったこと、27人全員が日本人であり、単位修得まで他の科目の受講を制限される「English for Academic Excellence: A(アカデミック英語:A)」ないし「English for Academic Excellence: B(アカデミック英語:B)」のみの履修となっており、平成27年度前期は、正規生はこれら2科目以外の授業科目を履修していない(従って、平成27年度前期(4月~8月)において前述2科目の他の科目は「履修登録者なし」となっている)ところから、平成27年9月の就任予定としても、授業科目の運営上の支障はないと考えている。(27)

生藤昌子氏及びRAFIEYAN, Vahid氏に関しては、平成27年7月のAC教員審査を経て(それぞれ准教授の職位適合、全ての予定科目担当可)、予定通り平成27年9月付で就任している。

FLACHI, Antonino准教授の辞任に係る対応としては、当該教員の辞任の意思表示の後、速やかに交代教員の公募を行い、結果、JHINGAN, Sanjay氏(45歳)を平成28年4月就任予定の教授として平成27年度第4回のAC教員審査の対象として受審し(教授の職位適合、全ての予定科目担当可)、平成28年4月付で就任させ、教員の交代のみで設置計画を適切に履行している。

HREBENAR, Ronald John教授の就任辞退については、平成28年度開設予定科目「Introduction to Political Science(政治学入門)」及び「Japanese Politics and International Relations(日本の政治と国際関係)」の2科目に関しては、併設学部(法学部法学科)のグローバル化への対応のために平成28年4月付で雇い入れた海外(米国)大学において同一科目を兼任講師として担当した職歴を有する原口幸司講師に兼任として担当させることとし、次年度(平成29年度)の開設予定科目である「US Politics(アメリカ政治)」「Global Politics(グローバル政治)」「Comparative Political Systems(比較政治体制)」「Seminar(Political Science)(政治学演習)」「Graduation Research Project(卒業研究)」「Workshop: Political Simulation Game(ワークショップ:政治シミュレーションゲーム)」に関しては、速やかに交代教員の公募を行い、公認候補者を選抜の上で、平成29年4月の採用予定教員として、平成28年度のAC教員審査を受審することとして予定している。

FENTON, Anthony Lawrence講師及びPATTERSON, Donald Glen講師の辞任に関しては、係る2名が担当していた科目「English for Academic Excellence: A(アカデミック英語:A)」「English for Academic Excellence: B(アカデミック英語:B)」「Academic Study Abroad Preparatory Course(留学準備コース)」「Composition 1(英作文1)」「Composition 2(英作文2)」「Academic Reading Across Disciplines(分野横断型アカデミック・リーディング)」「Expository Research Writing(リサーチ・ライティング)」に係る他の専任教員数が充実しているところから、今年度中に後任の補充方法について検討のうえ、平成29年度の開始までに必要となる手続を行う予定としている。(28)

・学生への周知方法

4月5日(日)より7日(火)までの期間に開催した本学部開設時の入学者に対する新入生オリエンテーションにおいて、LACKTORIN, Michael John教授(学部長)より27人の新入生全員に対して、(1)REISMAN, David Alexander教授及びSHIGEMATSU, Brandon Kenji准教授がそれぞれ就任を辞退したこと、(2)2名の後任に関しては速やかに公募のうえ教育の質や水準を低下させない者を補充すること、(3)2名の教員の就任予定年月を平成27年9月として予定しているものの平成27年度前期(4月~8月)において授業運営上の支障がないこと、(4)異議のある場合はLACKTORIN, Michael John教授(学部長)が直接に聞き取りを行うこと、の4点を説明した。結果、全ての学生がこの教員の交代予定に対し同意している。なお、前述(4)に係る申し出を行った学生はいなかった。(27)

4月4日(月)より6日(水)までの期間に開催した全学生対象のオリエンテーションにおいて、LACKTORIN, Michael John教授(学部長)より、(1)前述の「大学の所見」欄に記載の内容を説明するとともに、(2)平成28年度において授業運営上の支障がないこと、(3)異議のある場合はLACKTORIN, Michael John教授(学部長)が直接に聞き取りを行うこと、の3点を説明した。結果、全ての学生がこの教員の交代予定に対し同意している。なお、前述(3)に係る申し出を行った学生はいなかった。(28)

(注)・上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>1. 担当単位数が過多と思われる教員がいることについて、「アカデミック英語：A」及び「アカデミック英語：B」の担当を予定している教員の負担が大きいと分析した上で、それらの科目は日本人学生のみを対象とした科目であり、さらに「アカデミック英語：A」については選択科目であることから実際の開講数は申請書上の計画よりも少なくなるとして、実際の教員負担は大きくないという説明をしている。しかし、それらの科目の実際の開講数の見込みなどが示されておらず、また、仮に実際の開講数が申請書上の計画より少なくなった場合にどの教員が担当から外れるかなどの詳細な説明がなされていないことから、申請者の説明には不明瞭な点が残る。さらに、「冬期特別授業期間」に行われる補習授業の負担についてはこの教員負担計算に考慮がなされているか不明瞭である。そのため、実際に見込んである科目開講数や開講数に応じた担当者の割り振り、補習授業の負担等について詳細な分析を行い、教員の負担が過度にならないように適切な体制を整えること。</p>	<p>「アカデミック英語：A」と「アカデミック英語：B」の実際の開講数の見込みとそれに応じた専任教員の担当授業科目については、別紙の添付資料に示した内容になると想定している。入学定員80人のうち、20人程度（1クラス相当）は「アカデミック英語：A」を受講する必要がない程度の英語力を入学時点で有しており、これらの学生たちは第1年次の前期に「アカデミック英語：B」を履修することになる。残りの60人（3クラス相当）が第1年次の前期に「アカデミック英語：A」を、第1年次の後期に「アカデミック英語：B」をそれぞれ履修することになる。以上の想定に基づいて、「アカデミック英語：A」「アカデミック英語：B」「英作文1」「英作文2」「分野横断型アカデミック・リーディング」「リサーチ・ライティング」の担当と、科目区分「英語」に配置されている授業科目の担当を専任教員別に割り当てたものが、添付資料である。</p> <p>添付資料に示されているように、主専攻分野である「英語」に配当された「英語演習」を担当し卒業研究の指導を担当する2名の専任教員（レコード教授・オラグボイエガ教授）については、前期・後期ともに、75分の授業を週2回実施する授業3科目に加えて、75分の授業を週1回実施する演習1科目を担当することになる（演習を履修する学生たちの「卒業研究」の指導も担当する）。この授業負担については、他の分野の授業を担当する専任教員（1週間に3つの授業科目と1つの「演習」科目（「卒業研究」の指導を含む）を担当することが標準）とまったく同様の授業負担である。</p> <p>「英語演習」を担当しない他の9名の専任教員については、いわゆる語学教育としての英語にかかわる授業科目を中心に担当することになるが、この場合にも教育の質を担保するために、1週間に担当する授業科目を4科目とすることを標準にして教員の担当授業科目の割り振りを行っている。結果として、ほとんど教員の授業負担は1週間に3科目を担当するにとどまっている（前期に3科目・後期に4科目を担当するという教員が2名いるだけで、すべての教員について教育負担に余裕がある状況である）。現在のところ、「アカデミック英語：A」と「アカデミック英語：B」の再履修者が出ることを想定して、後期に「アカデミック英語：A」を1クラス、前期に「アカデミック英語：B」を1クラス追加して開設することを想定している。さらに、「英作文1」「英作文2」の再履修者が増加した場合にもクラス数を増加させて対応可能な状況となっている（添付資料の網掛箇所が示す通り、前期には5科目分、後期には7科目分の余裕がある）。</p> <p>「冬期特別授業期間」に実施する補習授業の担当については、「英語演習」を担当しない他の9名の専任教員のうち、週当たりの授業負担が4科目未満であった者に担当させる計画である。「冬期特別授業期間」は休業期間中に設定されているため、専任教員は通常の授業負担がない期間である。「英語演習」を担当しない専任教員は、卒業研究の指導を担当しないことから、週当たりの担当授業が4科目未満の場合、他の専任教員に比べて教育負担が比較的軽いことになる。このため、教育負担が相対的に軽い教員に補習授業を担当させることによって、全体として教育負担に偏りが出ないようにする計画である。仮に再履修者向けのクラスを増設したことにより、担当授業が4科目未満の教員がいなかった場合には、休業期間中に追加的な授業負担が生じることになるため、担当教員には所定の手当てを支給することを契約時に明示している。</p> <p>以上のように、語学教育としての英語を担当する専任教員について、教員の教育負担が過度にならないよう適切な体制を整えることができると考えている。(27)</p> <p>前述の内容については、予定通り履行した。引き続き、教員の教育負担が過度にならないよう適切な体制を以って履行する予定としている。(28)</p>	<p>留意事項</p>

<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>2. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>教員組織（専任教員）の構成が定年規定に定める退職年齢を超える教員の割合が比較的高い現状を踏まえ、専任教員の補充が必要となった場合には、カリキュラムの構成と教育水準を維持することを前提として、比較的若い教員の採用に努める所存である。平成27年度においては、就任予定の英語担当の専任教員1名と経済学担当の専任教員1名の計2名が就任を辞退するに至っているが、これら専任教員の補充についても、設置計画と同じ内容の授業科目を同様の水準で担当できることを前提として公募のうえ、それぞれ定年まで相当な年数のある候補者についてAC教員資格審査を申請することとしている。(27)</p>	<p>完成年度前に、定年規定に定める退職年齢を超える専任教員が担当するカリキュラムの区分については、継続性を担保するため、開設4年目に後任の教員を公募する計画である。 (27) 定年規定に定める退職年齢を超える教員1名（平成27年4月就任予定）が就任を辞退し、当該年度において若手准教授1名を採用した。 しかしながら、新たに平成28年度（平成28年4月）就任予定の定年規定に定める退職年齢を超える教員1名が就任を辞退したため、これらの補充に関しては、教育の継続性に配慮した年齢の教員を公募する計画である。(28)</p>
---------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>○ 学生の英語学習において、「言語学習アドバイザー」の役割は非常に重要であると思われることから、学修目標が実現できるよう、確実に実施することが望ましい。</p>	<p>その他意見</p>	<p>認可時の計画通り、言語学習センター (Language Acquisition Center : LAC) には、グローバルコミュニケーションに係る専門職学位を有する2名 (うち1名は国内の高等学校での英語教育の経験を有する者) の「言語学習アドバイザー」を配置したが、更に1名のバイリンガル専任事務職員を配置し、言語学習アドバイザーがアドバイジング職務に専念できる環境となっている。現在「アカデミック英語 (English for Academic Excellence : EAE) 」を受講中の学生たちは、週4時限分相当 (300分) の「自律学習」を言語学習センター (LAC) にて行っているが、学生は自習の状況や課題点を記入した「ラーニング・ログ (Learning Log) 」を毎回提出することとなり、これに対して言語学習アドバイザーがフィードバックを記入して個々の学生に適した英語学習法の助言を行っている。「ラーニング・ログ」は、各学生の「ラーニング・ポートフォリオ (Learning Portfolio) 」にファイリングされ、学習の過程や状況を確実に把握できるようになっている。また、言語学習アドバイザーは「ラーニング・ポートフォリオ」に基づき個別アドバイジングとグループアドバイジングを隔週で交互に行い、学生と英語学習上の問題について話し合ったり、効果的な学習法を自己分析したりする機会を学生に毎週提供している。これはまた学生の英語学習への精神的負担を軽減するカウンセリングの役割も果たしている。さらに、言語学習アドバイザーは、ランゲージ・プログラム・ディレクターと定期的な打ち合わせを通して緊密に連携を取っており、学生の学習状況を共有することによって「アカデミック英語 (EAE) 」の専任教員らと共に学生をサポートする体制を構築している。加えて、自律学習時間外に「言語学習センター (LAC) 」を利用して自習を行う学生に対しても言語学習アドバイザーが学習方法や教材についての助言を行うなどしている。このように、本学部における英語学習の重要性に鑑み、言語学習アドバイザーによる英語学習支援を確実に実施している。(27)</p>
---------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------	--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>○ 履修モデルにおいて、留学前に主専攻に関する科目の履修が少ないと思われることから、主専攻に関する専門的な科目をより多く留学前に学ばせるようにするなど、留学中及び留学後の学習とも併せて体系的・有機的な教育となると、留学前の教育についても充実させることが望ましい。</p>	<p>その他意見</p>	<p>必修科目である「World History (世界史)」を後期に担当しているが、平成28年度よりこれを前期にも担当し、学生が前期・後期の何れの学期においても履修できるように改め、留学前の2年後期には主専攻分野に関連した授業科目を現状よりも選択しやすくするよう改めた。 また、留学前に本学部で受講する主専攻の授業科目を充実させるために、「Language Arts (英語)」の科目区分における入門的な授業科目である「Introduction to Language Concepts (言語概念入門)」を、後期だけではなく前期にも開講することにした。これにより、同分野を主専攻とする学生のうち、言語学系の授業を中心に履修しようとする学生の留学前の教育を他の科目区分と同様に充実させることにした。(28)</p>	<p>留学前の学修では、「Composition 1 (英作文1)」「Composition 2 (英作文2)」など英語による授業を受講するために不可欠な授業科目の履修が必要となることから、履修上限単位数の関係上、履修することが可能な授業科目数(単位数)は限られてしまうが、一部の必修科目の現在の配当学期を見直すことで、学生が留学前に主専攻分野の授業科目を履修する機会を増やすことを検討している。具体的には、必修科目である「World History (世界史)」を後期に担当しているが、これを前期から履修できるようにすることで、留学前の2年後期には主専攻分野に関連した授業科目を現状よりも選択しやすくすることを検討している。(27)</p>
---------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>○ 教育課程における「数的推理・自然科学」科目の位置付けについて教養的に学ぶ補助的科目との説明だが、設置の趣旨に記載している教育課程の概念図では主たる教育課程の柱の一つとして表現されているように見えることから、学生が誤解を招かないようガイダンス等で説明するとともに必要に応じて概念図を修正されることが望ましい。</p>	<p>その他意見</p>	<p>本学部において、主専攻となる分野は、「演習 (Seminar)」が開講されている8つの分野 (①英語 (Language Arts)、②芸術 (Arts)、③芸能 (Performing Arts)、④音楽 (Music)、⑤哲学 (Philosophy)、⑥経済学 (Economics)、⑦政治学 (Political Science)、⑧社会学 (Sociology)) であることは、入学時のオリエンテーションの際に学生たちに説明している。その際に、「数的推理・自然科学 (Quantitative Reasoning & Natural Sciences)」が主専攻領域ではなく「演習 (Seminar)」科目が配置されていないことについても確認しているが、次年度以降の在學生 (第2年次以上対象) のガイダンスにまでに誤解が生じないように繰り返し説明を行うことにする。特に、今年度の入学者に対して第1年次後期が終了した直後に実施する平成28 (2016) 年度第2年次生ガイダンスにおいては、主専攻分野とアカデミックアドバイザーの選択について説明することになるので、上記の点を改めて確認することとして計画している。</p> <p>なお、設置認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」に示したご指摘の「概念図」に関しては、設置認可申請の際に教育課程の概要を示すための資料であり、学生への教育課程の説明及び学生募集に際しては具体的な科目名称を個別に記載した「教育課程表」を用いており、前述の「概念図」は学生及び志願者への説明には使用していない。(27)</p>
---------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>○ 入学者選抜の時点で学生に対して「本学部での学習に必要な基礎的な英語力と英語の学習能力」を求め、それを判定するのに適切と考える入試方法を実施することであるが、客観的な語学力を担保するためにも、今後、数値的基準を設けるなど、アドミッションポリシーの明確化を検討することが望ましい。</p>	<p>その他意見</p>	<p>本学部の教育課程では、授業を履修しながら段階的に卒業研究の作成を進める「カリキュラム横断型作文プログラム (Writing-Across -the-Curriculum Program ; WAC)」を採用している。このため、アドミッションポリシーに掲げた「本学部での学修に必要な基礎的な英語力と、英語の学習能力」についても、英作文の能力や文法の運用能力を確認する必要があり、通常の英語能力試験で測定される能力のみに依拠して入学者選抜を行うことは回避すべきであると考えている。その上で、本学部が入学者に対して求める英語能力の内容については、より具体的な表現でアドミッションポリシーを説明できるよう、引き続き検討することにする。(27)</p>
---------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>○ 「アカデミック英語」の単位を修得できなかった学生のために行われる補習授業について、本来正規授業内で修得すべき単位を追加的に認めるのであれば、それにふさわしい適切なレベルで実施し、安易な単位認定が行われないようにすること。</p>	<p>その他意見</p>	<p>必修科目である「アカデミック英語B (English for Academic Excellence : B)」は、学術英語として求められる各能力（リーディング (Reading) ・ライティング (Writing) ・スピーキング (Speaking) ・リスニング (Listening)) をバランス良く修得することを目指しており、実際の授業は、リーディング (Reading) ・ライティング (Writing) ・スピーキング (Speaking) ・リスニング (Listening) ・コンテンツベース学習 (Content-Based Learning) ・英語運用能力試験実践 (Testing Practice) の各単元に分けて実施している。単位を修得できなかった学生を対象とした補習授業については、「アカデミック英語B」と同内容として、各人が苦手とする単元の能力を補うための反復学習の場として運営する。このため、全ての補習授業は「アカデミック英語B」を担当する専任教員が、学生個別の状況を鑑みながら実施する。このように、「アカデミック英語B」で習得すべき内容を繰り返し学習させることを目的として通常の授業と同内容の学修成果を求めるものであるから、安易な単位認定が行われることとはなく、補習の後、「アカデミック英語B」の到達目標に達することができなかった学生については、翌年度（次学期）に再履修を求めることになる。(27)</p>	
---------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>○ 長期の留学となるため、現在準備しているサポート体制について、より万全な体制となるよう普段のフォローアップを行うことが望ましい。</p>	<p>その他意見</p>	<p>本学部の在学生在が本年度後期から留学を開始する可能性に備えて、設置計画に従い、アドバイザーによる事前の指導を開始しガイダンスを開催するなどして、計画した留学前の指導体制を実行に移している。また、保護者の理解も得るため、交換留学における重要事項に関する説明を記載した同意書を作成し、本人と保護者が留学中に注意すべき点についても確認を行うことができるように準備を進めている。(28)</p>	<p>本学部の在学生在が交換留学に出発するまでに、認可時の計画に従い、学生に対する事前の指導を徹底することに加え、留学中の安全、及びより高い学習効果をあげるために、本学より定期的に学生に連絡をとる体制を整える計画である。具体的には、本学から留学中の学生たちに対して定期的に電子メールを送信し、留学先の生活について返信を求めたり、LMS (Learning Management System) を利用し、留学先での履修科目の情報を提出させることで、帰国後の単位互換や履修登録が円滑に進むよう、さらには卒業研究や就職活動が滞りなく行われるよう、学生、教員、職員の間での情報交換の緊密化を目指す。(27)</p>
---------------------------	--------------------------------------------------------------------------	--------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>○ 養成する人材像として「異文化に対する親しみと寛容の精神」を掲げ、また、異文化を「特定の国や社会（地理的範囲）の歴史や伝統を念頭に置いたものではなく、他者が有する自らとは異なる背景（国籍、民族、宗教など）に基づく価値観や思考様式、規範、コミュニケーションの手段・方法を指すもの」ととらえているとのことであり、それに対応する教育内容としては海外留学及び学生寮における日本人学生と外国人学生の共同生活を設けていると思われる。しかし、複数の言語を背景に持つ留学生が想定され、また、異文化を上記のようにとらえているのであれば、海外留学や学生寮だけでなく、教育課程においても「異文化理解」等、異文化社会を学ぶ視点を含む授業科目を設け、養成する人材像に対応した教育課程の充実を図ることが望ましい。</p>	<p>その他意見</p>	<p>養成すべき人材像において、学生たちに修得させる能力の一つとして掲げた「異文化に対する親しみと寛容の精神」については、単に英語によるコミュニケーションが可能となるだけでなく、文化・歴史・民族性・習慣・宗教などの違いを乗り越えて、コミュニケーションを行うことができる人材が求められているという認識に基づいている。このため、主に海外からの留学生との共同生活や海外留学の体験を通じて、このような能力を修得することが期待されている。認可時の計画には、上記の説明のみを記載し、カリキュラムにおける教育効果については十分な説明がなされていなかった。上記に掲げた異文化に対する理解を学問的な観点から深めていくことができる授業科目としては、各科目区分の中に「グローバルな視点」や「比較研究の視点」から主専攻の分野について学ぶ授業科目を配置している（例えば、「世界の英語 (World Englishes)」、「世界の宗教 (World Religions)」、「グローバル政治 (Global Politics)」、「比較政治体制 (Comparative Political Systems)」、「グローバル化の社会学 (Sociology of Globalization)」、「比較文化研究 (Cross-Culture Studies)」など）。これらの授業科目では、異なる文化圏に対する理解を深めるという視点が当然に提示されることになることから、学生たちにはこのような授業科目の履修を通じて、学問的な意味においても異文化に対する理解を深める機会を提供する計画となっている。(27)</p>
---------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>○ 教育課程等の概要に記載している科目の配当年次と履修モデルに記載しての履修時期に整合性が取れていない部分があるため、いずれかの記載を修正するとともに、科目によってはゆるやかな年次配当についても検討することが望ましい。</p>	<p>その他意見</p>	<p>本学では、「アカデミック英語B (English for Academic Excellence (EAE) : B)」を必修科目としており、入学時点で非常に高い英語力を有する学生については、第1年次の後期から他の科目区分に配置されている授業科目の履修が可能になる。このようなカリキュラムの設計に基づいて、主専攻分野の入門的な授業科目については、第1年次の後期以降から履修可能となるように配当年次を設定している。このため、英語力を伸ばすために「アカデミック英語A (English for Academic Excellence (EAE) : A)」から履修を開始する学生たちは、第2年次の前期から他の科目区分に配置された授業科目の履修を開始することになるため、第1年次の後期に配当されている入門的な授業科目を第2年次の後期に履修する場合などが存在している。各主専攻分野の入門的な授業科目については、前期配当科目と後期配当科目のいずれを先に選択しても問題のないように配置されているため、現在のカリキュラムにおいても体系的な学修が実現されるように配慮されている。このように、現状でも体系的な学修を損なわない範囲であり、ゆるやかな配当年次となっていると考えている。(27)</p>	
---------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>○ リベラルアーツの教育課程において「地理・歴史」分野は欠かせないことから、今後も当該分野において科目開設や既存科目の中で触れられるような機会を設けるなどの工夫を行うことが望ましい。</p>	<p>その他意見</p>	<p>リベラルアーツの科目区分の中でも「西洋美術史 (History of Western Art)」「西洋哲学史 (History of Western Philosophy)」など当該分野の歴史的展開を学ぶことでその分野の基礎知識を修得することを目的とした科目を配置しており、既存科目の中で歴史分野を学ぶ機会が確保されるように工夫している。さらに、すでに開設している「人文教養 (Humanities)」の科目区分に「歴史学 (History)」分野として配置されている「世界史 (World History)」「日本史 (Japanese History)」「日本技術史 (History of Technology in Japan)」のほかにも、「地理・歴史」に関する新たな授業科目の新設を検討している。 (27) 前述の内容に関し、検討を続けている。(28)</p>
---------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>○ 社会科学分野の教員組織体制の質を担保する観点から、政治学関係で増員予定の専任教員について、担当予定科目の特定化等、増員計画の具体的な内容について予め学内で整備すること。</p>	<p>その他意見</p>	<p>政治学分野のカリキュラムの継続性を担保するために、開設3年目（平成29（2017）年度）以降に政治学分野を担当する専任教員の公募を計画している。政治学分野の授業科目については、平成28年（2016）4月に専任教員が着任した後に、公募する専任教員が担当する具体的な授業科目の決定を行うことができるように、検討を進める計画である。 (27) 政治学分野を担当する予定としていたHREBENAR, Ronald John教授が健康上の理由により就任を辞退したため、平成29年4月採用を目途に政治学分野の教員を公募のうえ、今年度中に必要となる手続を迫る予定としている。なお、公募に際しては、カリキュラムの継続性を担保することに配慮した年齢の教員を公募する予定としている。(28)</p>
---------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------	--------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>設置計画履行状況調査時 (平成28年2月)</p>	<p>○ 国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。</p>	<p>改善意見</p>	<p>平成27(2015)年度中には、平成28(2016)年度に向けて新設学部の認知度を上げるために、入試広報の範囲を拡大する取り組みや独自のイベントを開催するなどの取り組みを続けてきた。新設学部の認知度を向上させるための取り組みとしては、東京国際フォーラムでの「開設記念シンポジウム」と東京丸ビルでの「説明会」を開催した。「開設記念シンポジウム」では、日本ではいまだに十分な理解が得られていない「リベラルアーツ教育」について国内外のパネリストによる議論を紹介するとともに、本学部が目指している教育のあり方を知ってもらうことを目的として開催した。また、東京で本学部の教育内容を紹介し出願を検討している学生や保護者を対象とした独自の「説明会」を開催し、学部の教育内容を直接発信する機会も設けてきた。いずれのイベントについても、事前に新聞広告や雑誌への掲載を通じて、広範囲な広報を展開した。さらに、グローバル系学部への進学や、グローバル教育・英語教育に力を入れている高等学校への訪問を行い、本学部の教育について、高校生や高等学校の現場に認知してもらえるよう継続的に広報を続けてきた。開設初年度となった今年度中は、関西地域の高等学校にも範囲を拡大し、本学部の存在を認知してもらえるよう活動してきた。</p> <p>以上のような、学部の認知度を向上させる取り組みに加えて、高校生に本学部での学びの魅力を体験してもらうため、英語担当教員と日本語教育担当教員による英作文と日本語小論文の能力向上を目的とした講座や、英語での授業体験と英語によるプレゼンテーションのトレーニングを内容とするキャンプ、さらにスーパーグローバルハイスクール(SGH)の校外学習を受け入れ、本学部で英語の模擬授業を体験し外国人留学生と交流する機会を提供するなど、高校生に直接、学部の魅力を体験してもらえるイベントも実施した。</p> <p>しかしながら、平成27年度の入学人数は37人(うち4月入学者27人、9月入学者10人)、平成28年度の4月入学者は23人、現在までの平均定員超過率は0.37倍となっており、引き続き具体的な定員充足のための計画を以って、学生確保に取り組む所存である。(28)</p>	<p>平成29(2017)年度入試において十分な入学者を確保し定員充足率を改善するために、本学全体の入試広報のあり方を見直すとともに、本学部の魅力を直接、高校生に伝えることのできるイベントを重点的に実施することを計画している。まず、本学が主催する入試広報を目的としたイベントの詳細を早期に決定し、広報を開始する時期を早めることによって、それぞれのイベントの告知期間を十分に確保し、より広範囲な情報発信ができるように工夫する計画である。加えて、「英語による授業の受講」と1年間の海外留学の義務付け(必修)という本学部の教育内容とその魅力を実感し、潜在的な志願者が出願と入学を決意する契機となるような体験型のイベントの実施回数を増やすことで、入学者の確保に努めることにしている。本学全体の入試広報の早期開始については、入試日程や入試広報イベントの実施要領を前年度中に決定しており、4月には、学生募集・入試広報に係るホームページ等の情報の更新を行うだけでなく、本学の役職者が山梨県内の全ての高等学校を訪問して、上記の情報を告知している。5月以降は本学への入学実績が多い、近隣の都県の高校訪問に移行し、7月と8月に予定する規模の大きなイベントの実施前には、例年よりも広範囲な広報を完了する計画である。これにより、オープンキャンパスなどの高等学校の夏季休暇直前から本格的に展開される入試広報イベントまでに、これらに関する情報が十分に伝達され浸透するように万全を期したい。</p> <p>また、入試要項が完成した後、高等学校で進路指導や推薦の決定が行われる時期にも再度の高校訪問を実施して、入試制度の説明を行うことで、それまでの入試広報が実際の出願へと結び付くように情報発信を継続する計画である。本学部の魅力を潜在的な志願者に体験してもらうため、昨年度それぞれ1回実施した「英作文と日本語小論文の入門的な講座」、「英語による授業(模擬授業)体験」、「国際学生寮への宿泊体験」などを内容とするキャンプを、複数回実施する計画である。英作文と日本語小論文の入門的な講座については、本学部の入学直後に行われる「入門的な学習」を体験することで、出願への意欲を高めることを目的として実施するイベントである。このため、入学試験が開始される以前から受講の機会を確保し、高等学校の夏季休暇期間中、あるいは休日に、酒折キャンパス(甲府市)と東京会場のいずれにおいても受講が可能となるように体制を整える予定である。また、宿泊体験型のキャンプでは、本学部在籍する日本人学生が外国人留学生と共同生活を送る「国際学生寮での宿泊体験」を通じて、さらには英語力を高めるための集中的な授業プログラムの体験や実際の授業の見学、学部長によるリベラルアーツ教育の解説などを通じて、正課内・課外活動の双方による「国際的な学修環境」を有する本学部の魅力を伝え、体験を通して浸透させることを目的として実施する。これらの実施に際しては、十分な広報機会を確保することで、より多くの参加者が得られるようにする計画である。上記の計画を着実に実施することを通じて、平成29(2017)年度入試においては、十分な入学者を確保できるように努めることにしている。(注:「改善意見等に対する改善状況等報告書」に記載の内容)(27)</p>
----------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------	-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

<国際リベラルアーツ学部 国際リベラルアーツ学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>・交換留学生の受入れについて (「ア 設置の趣旨及び必要性」「2 国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科の設置の趣旨及び必要性」)</p> <p>交換留学生に対する授業科目の提供について、認可時の計画では、開設時(平成27年4月)に第1年次配当科目のみを開講する計画であった。このため、他の授業科目については、配当年次等に従って年度・学期ごとに段階的に開講されることになり、完成年度にはすべての授業科目を交換留学生に対しても提供することが可能となる体制であった。(27)</p>	<p>・交換留学生の受入れについて (「ア 設置の趣旨及び必要性」「2 国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科の設置の趣旨及び必要性」)</p> <p>本学部の教育においては、第1年次に学生寮で留学生との共同生活を送ることで、第2年次以降に交換留学に出発するまでの間に、疑似的な留学体験を日常的に経験することで、留学に出発するまでの間に、生活習慣の異なる者同士による共同生活に慣れておくことが非常に重要となっている。このため、交換留学生の受入れは、本学部の教育目的を実現するために極めて重要である。平成26(2014)年10月末の設置認可後、交換留学協定を締結した大学に対して、本学部の設置認可(平成27(2015)年4月開設)と交換留学の開始について通知し、複数の大学から交換留学生受入れの申し込みを受けた。ただ、海外大学でも留学を希望する学生たちは第2年次以降に在籍する者がほとんどであり、第1年次配当の授業だけでは本学部への留学期間中の学修を充実したものとすることは難しく、また実際に本学部で留学している期間に所属する大学との単位互換が可能な授業の履修ができなければ、留学中に十分な学修を継続することが困難な状況に陥ってしまう。このような状況に対応するため、本学部の専任教員と兼任教員、及び兼任講師が担当する授業科目について、開設年度にあたる今年度から開講することが可能な授業科目については、交換留学生の履修を考慮し、開講することとした。なお、授業の開講に必要な施設・設備・備品についてはすでに整備されていることから、交換留学生の履修に向けた授業の開講に際しての支障はない。また、図書等についても、授業に必ず必要となる文献については、開設前年度(平成26(2014)年度)と開設初年度(本年度)に購入する計画としており、開設前年度の購入分については計画通り履行していたことから、授業の実施に支障が出ることはない。来年度(平成28(2016)年度)についても、本年度と同様の措置を採用する計画であるが、来年度にはすべての専任教員が就任することから、交換留学生に提供することができる授業科目の範囲は今年度よりも拡大することができる。また、開設3年目(平成29(2017)年度)以降は、第3年次・第4年次配当の授業科目を当然に開講することになるため、このような特別な措置は必要ないことになる。(27)</p>

・入試区分について
（「ク 入学者選抜の概要」「（2）選抜方法」）
本学部では、日本人学生について4月入学、外国人留学生について9月入学、という区分に基づいて、入学者選抜を設計していた。（27）

・入試区分について
（「ク 入学者選抜の概要」「（2）選抜方法」）
これまでに、日本国外の「在外教育機関」や、オーストラリアの高等学校で日本語を学んでいる高校生から本学部に関わり合いがあり、現在の入試制度ではこのような生徒にとって、出願が非常に難しい状況にある。
具体的には、日本国外の「在外教育機関」では学習指導要領に基づいた授業が行われているが、入学と卒業の時期は現地の制度に依拠していることが多く、5月ないし6月以降に卒業を迎える生徒も多数存在する。このような生徒にとって、4月入学しか認められないことになると、卒業から大学進学までの間に約9か月間の空白が生じてしまうことから教育の連続性を阻害するため、日本国内の大学に進学する場合にも9月入学を検討しなければならない。このような生徒のために、日本人を対象とした9月入学の入試区分を新設する必要があると考えている。また、オーストラリアの高等学校は、卒業が11月のため、日本の大学との関係では4月が望ましい入学時期であり、仮に9月入学まで待たなければならないとすれば、卒業から大学入学までの間に約10か月間の空白が生じてしまうことになる。
以上のような状況を踏まえて、2016年度（平成28年度）入学者選抜より、日本人を対象とした特別入試（9月入学）と、外国人留学生を対象とした入試（4月入学）を新設することにする。9月入学の日本人学生を受け入れた場合にも、「アカデミック英語」や「英作文」などの必修科目及び選択必修科目が前期・後期の双方に開講されていることから、授業科目の履修について不都合が生じることはない。また、外国人留学生が履修する日本語教育を目的とした授業科目についても、前期・後期の双方に開講されていることから、同様に履修上の不都合が生じることはない。いずれの場合にも、募集人員を2人として設定しており、授業科目のクラス編成に支障をきたすような学生の受入れは想定されない。

なお、上記の変更については、平成27年4月に文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室に相談を行い、変更について問題がないことを確認している。その際に、「若干名」という募集人員の設定では、入学定員の適切な管理の観点から問題があるとのこと指導を受けたことから、すべての入試区分の募集人員を数値化し入学定員の適切な管理を行うよう改めることとした。変更後の具体的な募集人員は、添付資料の通りである。

上記の変更については、本学ホームページを通じてすみやかに公表するとともに、志願者に不都合が生じることのないよう、本学が実施する高等学校訪問・オープンキャンパス・進学説明会・資料送付の際に、専用の説明資料を用意して周知に努める計画である。（27）

これまでの高校訪問などの広報活動の結果、本学部の教育内容に強い関心を示していただいた高校から、指定校推薦の導入に関する相談を受けており、平成30年度入試から「指定校推薦入試」を新たな入試区分として設定する計画である。

英語によるグローバル教育に注力している高校からの進学希望者は、特色ある教育プログラムの経験をアピールすることができるAO入試や推薦入試に挑戦する事例が多い。このため、このような教育に特に力を入れている高校の出身者で、本学部のアドミッションポリシーに合致し、十分な英語力を有する学生が挑戦しやすくなるように、本学部の教育内容を精確に理解し、人材養成に関する考え方を共有することのできる高校との間で指定校推薦入試の制度を導入する計画である。

なお、平成27年4月に文部科学省高等教育局大学振興課入試室に相談を行った際の指導に基づいて、適切な定員の管理と募集人員の大幅な変更が生じないように各入試区分の募集人員を見直すとともに、内容が確定後、すみやかに本学ホームページを通じて関連する情報を公表し高校訪問や資料送付時には、変更内容に関する周知に努める計画である。（28）

<p>・授業科目の追加について （「エ 教育課程の編成の考え方及び特色」「（2）授業科目の区分の概要） 本学部では、外国人留学生に対する日本語教育に係る授業科目として、科目区分「Japanese Language（日本語研究）」に配置の授業科目は次に掲げる通り6科目を第1年次前期・後期にそれぞれ配置することとして計画していた。</p> <p>Elementary Japanese 1 （日本語初級1） Elementary Japanese 2 （日本語初級2） Elementary Japanese 3 （日本語初級3） Intermediate Japanese 1 （日本語中級1） Intermediate Japanese 2 （日本語中級2） Advanced Japanese （日本語上級）</p> <p>(28)</p>	<p>・授業科目の追加について （「エ 教育課程の編成の考え方及び特色」「（2）授業科目の区分の概要） 外国人留学生の、日本語特有の漢字表記・漢字表現への教育欲求に対応するため、左に掲げる授業科目のほか、次の2科目を第1年次前期・後期に配置する科目として追加した（担当教員3名（當眞正裕准教授、今城淳講師、花城可武講師）については、平成28年1月、AC教員審査済）。</p> <p>Shortcuts to Kanji （漢字演習） Kanji in Contexts （文脈の中の漢字）</p> <p>(28)</p>
<p>・初年次の英語教育プログラムの統括責任者の交代について （「オ 教員組織の編成の考え方及び特色」「（1）教員の配置状況」） 初年次の「英語教育プログラム（English for Academic Excellence ; EAE）」を統括する責任者（以下、「EAEディレクター」と略記する。）として、法人の定める定年年齢を超えた専任教員を委嘱し、同プログラムを履修する学生の自習をサポートする「言語学習センター（Language Acquisition Center ; LAC）」（以下、「LAC」と略記する。）の責任者を兼務させる計画であった。（28）</p>	<p>・初年次の英語教育プログラムの統括責任者の交代について （「オ 教員組織の編成の考え方及び特色」「（1）教員の配置状況」） 初年次の英語教育プログラムは、日本人学生が英語による授業を受講することができる程度の英語力を習得し、海外大学での授業の履修を行う段階に到達するために、極めて重要なものであることは言うまでもない。このため、学部の正規の教育プログラムを統括する責任者と、学生の自習をサポートするために設置したLACの責任者との兼務を解消して、同プログラムの責任者がその運営に専念する体制を整えることで、学部内での同プログラムの運営のあり方を改善することとした。開設時のEAEディレクターを務める専任教員が法人の定年年齢を超えていることを踏まえて、OLAGBOYEGA, Kolawole Waziri教授を、平成27年9月から新たなEAEディレクターに委嘱した。同教授は、国際教養大学の英語プログラムや同大学院課程で授業を担当するなど、日本における（第2言語としての）英語教育に関する豊富な経験を有している。（28）</p>

<p>・初年次の英語教育プログラムの見直し （「カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件」「（1）授業の方法」）</p> <p>日本人を対象とした教育課程においては、初年次の英語教育プログラムのうち、「アカデミック英語B (English for Academic Excellence B; EAE B)」を必修科目とする計画であった。（28）</p>	<p>・初年次の英語教育プログラムの見直し （「カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件」「（1）授業の方法」）</p> <p>本学部を志願する者の中には、海外で中等教育課程を修了した者や日本国内のいわゆるインターナショナルスクールを修了した者が一定の割合で存在している。このような学生たちは、入学時点で英語による授業受講が可能な程度の英語力を身に付けており、初年次の英語教育プログラムの受講がまったく不要な場合が少なくない。このため、日本国籍を有するという観点のみで、履修する教育課程を判断してしまうと、適切な教育課程を提供できないという問題が発生することになる。</p> <p>上記の問題に対応するため、平成27年11月4日に文部科学省高等教育局高等教育企画課大学設置室に相談を行い、入学時点で十分な英語力を習得していると認められる学生については、平成28年度より初年次の英語教育プログラムの履修を免除し、他の必修科目の履修開始を認めることができるように制度を変更することとした。英語教育プログラムの履修免除の判断については、これを慎重に行うこととし、履修免除を希望する者は出願時に英語力能力を証明する書類（TOEFLやIELTSの成績）を提出し、入学後に筆記試験と口述試験を受けることを求める計画である。入学前の英語力の証明書だけでなく、入学後、本学部において実施する2つの試験の結果に基づいて、英語教育を専門とする専任教員が英語による授業の受講が可能であると判断した場合に、初年次の英語教育プログラムの履修を免除することになる。（28）</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>・日本国籍の有無に基づく教育課程の区分の見直し （「カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件」「（１）授業の方法」） 設置認可申請時には、日本人学生が初年次の英語教育プログラムを履修し、外国人留学生が日本語教育プログラムを履修することを想定していた。このため、教育課程は日本人を対象としたものと、外国人留学生を対象としたものをそれぞれ編成していた。（28）</p>	<p>・日本国籍の有無に基づく教育課程の区分の見直し （「カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件」「（１）授業の方法」） 本学部は、日本語教育を目的としたごく少数の授業科目を除いて、英語で授業を行うことから、日本人学生の中でも長期間にわたって海外で生活した者が出願するケースがある。このような日本人学生の中には、英語を使用して成長し教育を受けてきたために、日本語の能力が十分ではない者も存在しており、国籍上は日本人であっても、実際には英語が母語となっており、生活の実体も外国人留学生と何ら変わりがないという事例も存在している。 このような日本人学生に対して、適切な教育課程を提供することを可能とするために、平成27年11月4日に文部科学省高等教育局高等教育企画課大学設置室に相談を行い、国籍上は日本人である学生であっても、当該学生の成長過程や教育歴から判断して、外国人留学生と同様の教育課程を履修することが適切な場合には、当該プログラムの履修が可能となるように計画を変更することとした。 なお、大学設置室との相談時の指導に従い、個々の学生が履修すべき教育課程に関して誤解が生じないように、入試広報において、各自の教育歴と出願時の英語能力に基づいて履修する教育課程の内容が異なることを明確にする計画である。また、個々の学生が履修することになる自身の教育課程の内容を精確に理解していることを確実にするため、入学試験要項においても詳細な説明を行い、出願時にもそれぞれの志願者が入学後に履修する教育課程の内容について確認することができるようにする。国籍上は日本人であっても、外国人留学生と同様の入試内容で出願を認めることについては、平成28年3月に文部科学省高等教育局大学振興課入試室に電話で相談を行い、入学試験要項における出願資格を適切に定めることで可能であることを確認している。（28）</p>
<p>・授業科目の配置時期について （「カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件」「（１）授業の方法」） 本学部では、以下の2つの授業科目について、開講する学期を次に掲げる通り計画していた。</p> <p>Introduction to Language Concepts （言語概念入門）：1年 後期 World History （世界史）：1年 後期</p> <p>(28)</p>	<p>・授業科目の配置時期について （「カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件」「（１）授業の方法」） 設置時（平成26年10月）のその他の意見「○ 履修モデルにおいて、留学前に主専攻に関する科目の履修が少ないと思われることから、主専攻に関する専門的な科目をより多く留学前に学ばせるようにするなど、留学中及び留学後の学習とも併せて体系的・有機的な教育となろう、留学前の教育についても充実させることが望ましい。」を踏まえ、左に掲げる2つの授業科目について、開講する学期を次に掲げる通り改めた。</p> <p>Introduction to Language Concepts （言語概念入門）：1年 前期・後期 World History （世界史）：1年 前期・後期</p> <p>(28)</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

国際リベラルアーツ学部では、(1) 学生による授業アンケート（前期・後期の年2回とし、全科目を対象とする）の実施、(2) 授業開放による教員相互の教育方法・内容・技術に関する情報交換の推進、(3) 教員研修会の開催を予定している。

また、専任教員全員で構成する毎月定例の国際リベラルアーツ学部教授会の終了後、引き続き授業方法に関する研究を目的とした「国際リベラルアーツ学部FD会議」を実施のうえ、(a) 各教員の持ち回りによる教授方法・技術に関する事例の報告、(b) 学生個々の理解度に基づく教授方法等の妥当性の検討、(c) 学生の課外の学習を支援するためのLMS (Learning Management System) の活用授業運営に支障を来さない範囲で参観は随時開講する研究を行うこととしている。なお、4月の授業開始前に開催の第1回国際リベラルアーツ学部FD会議においては、教員相互の授業の参観について授業運営に支障を来さない範囲で参観は随時可能であることを申し合わせている。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

全学に亘るFDについては、主に前期の学生による授業アンケートの実施方法の確認のため5月25日（水）に開催することとして予定している。

月例の国際リベラルアーツ学部教授会の終了後、引き続き専任教員全員で開催する「国際リベラルアーツ学部FD会議」については4月15日（金）に開催され、開設直後であることに鑑み、学生の課外の学習を支援するためのLMS (Learning Management System) の活用に関する効率的運用やレポート課題の示し方、学生からの回収の仕方、添削指導に関する利用方法に係る議論や、PC操作を不得手とする教員に対する具体的な利用方法の説明を実施した。この第1回目の会議には、今年度（開設時）就任の全専任教員が出席した。

なお、資料として「学習・教育開発センター規程」及び「学習・教育開発センター運営委員会規程」を、別途添付する。

c 委員会の審議事項等

委員会の審議事項等に関しては、全学にわたりFD（SDを含む）、初年次教育、学習支援（補習教育を含む）、IR（インスティテューショナル・リサーチ）を包括的に取り扱う学習・教育開発センター規程第3条及び第9条において、以下のとおり定めている。

（事業）

第3条 LEDセンターは、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 初年次教育及びコンピテンシー教育に係る授業の計画と運営
- (2) ファカルティ・ディベロップメント（FD）及びスタッフ・ディベロップメント（SD）の計画と実施
- (3) ピア・サポート体制の確立
- (4) 補習教育を含む学習支援
- (5) インスティテューショナル・リサーチ（IR）
- (6) その他LEDセンターの目的達成にとって適当と認められる事業

（運営）

第9条 LEDセンターに、事業の計画、運営等に関する事項を審議するため運営委員会を置く。運営委員会に関する規程は別に定める。

② 実施状況

a 実施内容

- (1) 授業方法についての研究会
- (2) 教員相互の授業参観
- (3) 新任教員のための研修会
- (4) LMS (Learning Management System) の使用方法説明会

b 実施方法

- (1) 授業方法についての研究会 : 毎月学部教授会終了後に「国際リベラルアーツ学部FD会議」として開催
- (2) 教員相互の授業参観 : 授業運営に支障を来さない範囲で参観は随時
- (3) 新任教員のための研修会 : 前年度末に実施
- (4) LMSの使用法説明会 : 前年度末に実施

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- (1) 授業方法についての研究会 : 4月は17日（金）に開催し、全専任教員が出席した。
- (2) 教員相互の授業参観 : 4月17日（金）開催の(1)の研究会の際に、相互に確認した。
- (3) 新任教員のための研修会 : 全専任教員が出席した。兼任・兼任教員に関しては最初の授業の前に個別に説明を行った。
- (4) LMSの使用法説明会 : 全専任教員が出席した。兼任・兼任教員に関しては最初の授業の前に個別に説明を行った。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

毎月定例で開催を予定する前述(1)の「国際リベラルアーツ学部FD会議」において授業内容や方法・教育技術、学生からの授業の感想や意見・要望などを踏まえ検討した結果を随時共有のうえ議論し、速やかに改善に向けた取組みに活用しよう進めている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期、後期ともに、第8週目に実施することとしている。

b 教員や学生への公開状況、方法等

教員や学生への公開状況に関しては、開設後1年の本学部においては、教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）に関しても着手したばかりであり、本報告書の取りまとめの時点において教員や学生に公開した情報はない。また、交換留学生の受入れも行っており、学生の出身国や宗教観・倫理観などに基づく解釈の相違もあり、学生の誤解を招かない方途を検討している。

今後、教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）に係る情報の公表に際しては、(1) 教員は本学イントラネット及びLMSの活用を、(2) 学生は本学イントラネットの活用を、それぞれ予定している。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学部は、豊かな教養教育と英語の専門教育を接合したリベラルアーツ型の教育課程と国際的な学修環境の提供を通じて、①日本語と英語による、高度なコミュニケーション能力、②批判的、創造的、自立的、グローバルな思考力、③異文化に対する親しみと寛容の精神、を修得させることを教育目標として掲げている。第1年次から第2年次にかけて、英語による授業の受講と海外留学に必要な英語力を身につけるための授業科目を履修し、これらの授業科目を修了した後は、主専攻分野を中心とした授業科目を受講するリベラルアーツ型の教育課程を通じて、幅広い視点から問題を捉え、自分自身の見解を形成するとともに、それを英語で表現することを学んでいくことになる。また、第1年次には、海外からの交換留学生とともに学生寮での共同生活を体験することで、第2年次以降の交換留学のための準備を行うことになる。以上のように、リベラルアーツ型の教育課程と国際的な学修環境を提供することで、教育目標として掲げた能力を学生たちに修得させることが本学部の使命ということになる。

学部開設から1年が経過したとはいえ、現段階（平成28年5月現在）で上記のような設置の趣旨・目的が達成されているかを評価することは非常に困難である。しかし、第1年次の英語教育を修了した学生たちが、英語による授業の受講を開始し、本年度後期には提携先大学への1年間の留学に出発する予定である。また、昨年度に引き続き、交換留学協定を締結した海外大学から交換留学生の受け入れも順調に進んでおり、本学部の大きな使命のひとつである国際的な学修環境の提供は着実に実現されている。

本学部の開設を契機として学生の英語学習のサポートのために開設した言語学習センターには、毎日のように学生たちが自習に訪れており、言語学習アドバイザーの指導・助言に基づいて、自分自身の学修を進めている。今年度入学した新生も、つい先日まで、日本国内の高校で学んでいたとは思えないほど、国際的な学修環境に身を置いた学生たちも自然と英語による生活に慣れ始めている様子である。この意味でも、本学部が意図した国際的な学修環境の提供は、概ね順調に達成されていると自負している。

今年度は、交換留学協定を締結した他の大学からの交換留学生の受け入れだけでなく、本学部の学生たちも海外大学への留学に向けて準備を開始する段階に入った。英語による学修能力を確立するための授業科目の履修と並行して、専任教員によるアカデミックアドバイザーの制度を通じて、学生たちが留学・卒業研究の作成へと順調に歩みを進めることができるように、計画した内容を着実に履行している。また、設置認可時に付された意見を真摯に受け止め、本学部のリベラルアーツ型の教育課程において、学生たちの体系的な学修が可能となるよう、認可時の計画に基づく授業科目に関し配当年次を遵守しながら開講する学期を追加するなど必要な措置を講じている。昨年度と同様に、学部開設からこれまでの経験を踏まえて、学生たちが留学中も安心して生活することができるように、日常的なフォローアップの体制を整備することに加えて、今年度は保護者に対する説明の準備も進め、重要事項を説明した同意書を作成するなど、設置認可の際の計画よりも充実した準備体制となるように検討を続けている。

本学部は、日本国内でも有数の国際色豊かな学部であると自負している。今後も、本学部の意欲的な教育プログラムが広く認知されるように、入試広報活動を一層、強化して、入学者の確保に努める計画である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成28年7月1日 公表予定（平成27年度報告書）

b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を刊行し、地域自治体及び地域企業に配布を予定（平成28年7月を予定）
- ・本学ホームページ上に公開予定（平成28年7月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成28年度に日本高等教育評価機構の認証評価を受審することとして、全学合同教授会及び理事会で承認済。（平成26年3月）

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(平成28年6月末)